

知と美の空間で

司書資格取得を目指すあなたへ



SEITOKU

聖徳大学 | 司書・司書補講習

# 講義中スマホ等利用自由 音出し禁止

## 図書館司書講習 「生涯学習概論」

2024/07/24・25・26

9:00~17:55

図書館司書講習  
「生涯学習概論」

- 若者文化研究所 西村美東士
- <http://mito3.jp>
- 検索語 若者文化研究

# ソーシャルディスタンス確保

- ご意見、ご質問は「BBS」を通してお寄せください。
- → <http://mito3.jp/card01>
- ログイン S\*\*\*\*\*
- パス S\*\*\*\*\*nowa

# 生涯学習とは

生涯学習とは、個人の充実とともに、地域での人々の学び合い、支え合いを進めるものである。それは現代社会が強く求めている価値である。このことは、個人（仲間内）完結型の価値観を、社会開放型の価値観に転換させることにつながる。逆にいえば、社会開放型への転換が、個人化で行き詰まった若者を救うことになると考える。

# 本講義の概要

## 目的

生涯学習推進の意義と方法を理解し、図書館司書としての生涯職業能力を自己開発する見通しを持つ。

## 目標

1. 生涯学習の重要性について、自分の言葉で説明できる。
2. 人々の生涯学習ニーズの多様化に対応する司書の役割について、自分の言葉で説明できる。
3. 生涯学習まちづくり推進の内容と方法を知っている。

# ◆資格取得基準

## 試験の内容と方法

課題シートの作成＝講義中に作成して各自保管。

最終テスト

最終テストに限りスマホの持ち込みはできません。

暗記不要。課題シートを参考にする。

答案とともに課題シートを提出する。

資料等、持ち込み自由。

課題シートや答案用紙は返却しません。

自分の答案等のコピー、撮影は自由。

# ◆「生涯学習概論」のミッションー内容

個人の自主性・主体性尊重の視点からとらえてみよう。

- (1)生涯学習・生涯教育論の展開と学習の実際
- (2)生涯学習社会における家庭教育・学校教育・社会教育の役割と連携
- (3)生涯学習振興施策の立案と推進
- (4)教育の原理とわが国における社会教育の意義・発展・特質
- (5)社会教育行政の意義・役割と一般行政との連携
- (6)自治体の行財政制度と教育関連法規
- (7)社会教育の内容・方法・形態(学習情報提供と学習相談、評価を含む)
- (8)学習への支援と学習成果の評価と活用
- (9)社会教育施設・生涯学習関連施設の管理・運営と連携
- (10)社会教育指導者の役割

# 講義全体のもう一つのストーリー



# ICTを使い倒せ

## 後述グドバスのプロファイリング「保育実習生の課題」

○子ども同士の  
人間関係構築  
策に向けた  
支援を行う。

○次年度も進学  
を見据えた  
計画や関与を図る。

○地域資源を  
活用した保育の  
展開。

○子どもの自立  
に向けた保育の  
関与。

○子どもの興味を捉えて遊ぶ。  
○発達や性格といった個を捉える。

○個を見ながら集団を動かす。

○職員間へのコミュニケーションのとりかたを学ぶ。

○ワークショップと挨拶を積極的に行う。

○保育者の言動のいよと考える。○備前倫理を

○保育スキル（声の出しかた、指示の内容、量、位置、立ち廻り）

○家庭環境を把握する。

○生活リズムの流しと整える。

○子どもの生命の保持や安全な保育環境をつくる。

○子どもの情緒の安定を促す。

○子どもが安心して自己を表現できる環境づくり。

○保護者への安定した関係性づくり。

○様々な言葉や態度、人、経験から感じ取る。(2)

○保護者の不安や悩み、疑問に寄り添う。

○必要に応じて育児等に肉する助言、アドバイス。

○地域への支援 ○子どもの主体性を尊重

○虐待や発達障害の早期発見、対応

○子どもの成長喜びを保護者に共有できる信頼関係の構築

○子どもの健康増進。○基本的な生活習慣の習得

○一人一人に合った保育の展開

○清潔な保育環境づくり。○自身の体調管理

○PDCAサイクルを用いた自身の保育の省察

○子どもの発達に合わせた保育内容の変更の柔軟性

○園の理念や方針、周辺の社会資源の把握

○実践への気持ちやモチベーションの向上

○実習生＝不慣れな環境への受け入れ、失敗を恐れず、自ら学びを促す

○事前準備（計画、流れ、材料、前知識を決定し、これらを行う）

○現場の経験  
を保育者に  
伝えている

○知識を現場に  
アウトプットする。



# グーグルレンズで手書き文字の読み取り

Googleドライブ→対象ファイルを右クリック→[アプリで開く]-[Googleドキュメント]

## 「保育実習生の課題」

実習態度	感謝の気持ちを持って誠実な態度を示す PDCAサイクルを用いた自身の保育の省察 子どもの反応に応じて保育内容を変更する柔軟性 事前に準備(計画、流れ、材料、角の対応法)を完璧にしてイメトレを身につける 自身の体調管理 実習生=未熟ということを受け入れ、失敗を恐れずに、自ら様々なことに挑戦させてくれるよう頼む 清潔な保育環境づくり 保育倫理を読みこむ ほうれんそうと挨拶を積極的に行う。 笑顔を維持し、子どもからも保護者からも親しみやすい雰囲気を出す 子どもを心から愛する	資質向上 まち保育 子ども理解 保育者スキル	知識を現場にいかして援助を行う。 現場での経験を保育学につなげる 地域資源を活用した保育の展開 地域の子育て支援 園の理念や方針、周辺の世界資源の把握 子どもの興味を捉えて遊ぶ 発達や性格といった個を捉える 保育スキル(声の出し方、指示の内容、量、伝え方、立ち位置) 職員間のコミュニケーションのとり方を学ぶ、アウトプットする。 保育者の言動の意図を考える 生活リズムの流れを整える 子どもの生命の保持や安全な保育環境をつくる 子どもが安心して自己を発揮できる環境づくり 子どもの自立に向けた保育者の関わり 個を見ながら集団を動かす 子ども同士の間関係構築に向けた 次年度や進学を見すえた計画や関わりをする。 子どもの主体性を尊重 子どもの健康増進。基本的な生活習慣の習得 様々な言葉や自然、音楽。人、経験にふれ、感性を養う 子どもの情緒の安定を促す。 1人1人に応じた保育の展開
保護者支援	家庭環境を把握する 必要に応じて育児等に関する助言、アドバイス、保護者の不安や悩み・疑問に寄り添う 虐待や発達障害の早期発見、対応 子どもの成長の喜びを保護者と共有できる信頼関係の構築 保護者との安定した関係性づくり	保育内容	

# 講師紹介

## 資料

日本青年館『社会教育』2024年7月号  
西村美東士「私の青少年教育リカレントー社会教育の魅力につねに立ち返るー」

# 前掲資料の関連リンク

リカレント教育については・・・西村「リカレント教育」弘文堂『福祉社会事典』1999年 <http://mito3.jp/seika/1800.pdf>

広域施設ワーカーの課題については・・・西村「青年の家についてみんなで考えてみよう」東京都青年団体連絡協議会『大会資料』1977年  
<http://mito3.jp/seika/0010.pdf>

戦後青少年教育については・・・西村「青少年教育論教材」 <http://mito3.jp/seisyou>

寺中構想については・・・西村「癒しの公民館―新しき伝統」本誌1999年3月 <http://mito3.jp/seika/3920.pdf>

青年教育のネオトラについては・・・西村「狛プーはどうしてネオ・トラなのか」本誌1994年 <http://mito3.jp/seika/1080.pdf>

今日の発展形の課題については・・・西村「全国自治体のユニークな事業―国立市公民館視察報告」聖徳大学『松戸市社会教育作成におけるスモールコレクション』2015年

(<http://mito3.jp/seika/3350.txt>)

駅のプラットフォームのようなもの(第五期豊島区生涯学習推進協議会「『つどう、つながる、つなげる、つくりだす』豊島区生涯学習センター機能の実現に向けての意見書」2016年 [http://mito3.jp/toshima\\_ikensyo.pdf](http://mito3.jp/toshima_ikensyo.pdf)

【補注】まちづくりに向けた青年団と行政とのコラボについて、私は、「個人の多様性を認める数少ない場」としての青年団の意義と今日の可能性を主張した(西村「違いを認め育む」日本青年団新聞)2021年 [http://mito3.jp/seinendan\\_collabo2021.pdf](http://mito3.jp/seinendan_collabo2021.pdf)

【補注】私は、学習集団を支援する施策と方法について、これまでのネットワーク重視から同心円集団重視への転換を説いた。これは、ネットワーク重視における個人の自発性尊重を継承しつつも、「個人の自発的支持に基づく人格的権威」に依拠するものである(西村「学習集団形成のプロセスと支援」国立教育政策研究所社会教育実践研究センター「社会教育主事講習資料」2010年 <http://mito3.jp/20100201syuudan.pdf>

「没入している生き様」のモデルを若者は求めている(西村「癒しのサンマと若き旅人たち―地域若者文化のはぐくみ方」青少年問題研究会(総務庁青少年対策本部編集協力)『青少年問題』 <http://mito3.jp/seika/1660.pdf>

「ほんものの文化にふれる、ゼロと一の違い」を重視して、受講者の社会教育職員に「特別文化講座」を提供していた(西村「感性にせまる、核心にせまる」本誌1985年6月 <http://mito3.jp/seika/0240.pdf>

大学教員には「研究も教育も」求められる。「どちらか一方だけ素晴らしい」という人はあまりいない。「本物」の大学教員は「研究も教育も本物」である。それは、学生に「知的水平空間」の魅力を伝えることにもなる(西村書評「早田幸政『大学の質保証とは何か』」日本教育新聞社『週刊教育資料』2016年 <http://mito3.jp/seika/3480.html>

ある落語家が、大学で講師をやっている、「毎年、新しい若者が来るのでありがたい」と言っていた。ワーカーも「新しい若者」と出会うことができる。それは、「新しい時代」との出会いであり、その意味から、リカレント「教育」ではなく、出会いのリカレントと言うことができよう(桂文珍「『非常識』講師が学んだ現代若者考」産経ニュース [https://www.sankei.com/article/20220216-7TNV5RQR3JMWVFATNBPT35U7RVM/?outputType=theme\\_portrait](https://www.sankei.com/article/20220216-7TNV5RQR3JMWVFATNBPT35U7RVM/?outputType=theme_portrait)

今後のOJTのあり方については・・・西村書評「川島高之『いつまでも会社があると思うなよ!』PHP研究所、2015年」 <http://mito3.jp/syohyou/html/3460.html>

全国規模で青少年教育の実践報告が収集、掲載されていた「青少年問題文献集」が2002年度までで中止になったことは残念だ。青少年の社会参画が叫ばれる今日こそ、このような実践の蓄積と交流が必要と考える(西村『わが国の青少年教育及び青少年問題』2020年 <https://www.ihcs.otsuma.ac.jp/ebook/book.php?id=70>)。

# 前掲資料の関連リンク

私は、第1の社会化支援(社会の一員としての充実)、第2の個人化支援(個人としての充実)とともに、「第3の支援」を提唱している(西村「若者の居場所に求められる第3の支援」日本精神衛生学会発表2020年 <http://mito3.jp/seisin36.html>)

西村「ニューメディアをひっかきまわす若い母親たち」本誌1997年12月 <http://mito3.jp/seika/1530.pdf>

私は、大学教育において、なんでも自由に書いて、次週に教師が紹介し、コメントする「出席ペーパーシステム」を導入して、学生参加型双方向授業を行っていたが、BBS(電子掲示板システム)を導入して、交流を活性化させた。現在は、グーグルドライブなどによって、さらに共同作成ワークなどにも発展させている。これらがすべて無料でできるのだから、ユースワークに使わない手はあるまい(西村美東士ICTシステム <http://mito3.jp/ccc>)

また、「マインドマップ」も有力なツールである。指導者が、若者の望むテーマで本人にインタビューし、これをマップに書き込んで構造化してみせる。そのマップを本人が説明すれば、彼は自分の考えを構造的に理解し、理論的に説明したことになる(西村「若者との協働による価値創造の新しい方向」本誌、2017年 <http://mito3.jp/seika/3690.pdf>)

私はボトムアップの有力なツールとして、クドバス(CUDBAS)に注目している。凸版印刷では、トップが滝野工場のクドバスの成果に注目し、その「社内水平展開」を指示した。ローカルから発したクドバスが、全体に波及して総合化されるという動きについて、私は「組織の中で、ボトムアップとトップダウンがスムーズに(気持ちよく)往復し合ったからこそ」と評価した(西村「職業能力の見える化がもたらすもの」、齋藤ゆか他『学びの見える化の理論と実際』勁草書房、2023年 <https://www.keisoshobo.co.jp/book/b622007.html>)

本書の表紙帯には「見逃せないのが、『気の進まない作業』と『どんなにたいへんであっても苦労とは感じない作業』があるとしていることだ」と書かれている。『気の進まない作業』とはボトムアップの伴わないトップダウンの横行によるものといえよう。クドバスでは、自己内対話によって書き出した能力カードによって、社員一人一人が自分を活かし、組織の中で個を発揮することにつながった。ワーカーと彼が所属する組織との関係についても、このようにして、ワーカー個人の自己発揮と、組織への参画を実現するものであると私は考える(西村「職業能力の見える化がもたらすものは何か」、職業教育開発協会「CUDBAS研究大会」2023年 <http://vedac.or.jp/kenkyuu.html>)

組織の中で働くことは、楽しいことばかりではない。しかし、組織への「恨み辛み」だけで生きていくことは、個人としては不幸なことだ。個人は組織の中で充実するというのも、もう一方の事実である。だとしたら、ワーカーは、「恨みの誤解より楽しい誤解」を大切にしていきたい。

私は学習相談を「個人(または援助者)の求めに応じ、学習環境等の客観的条件や、精神的・身体的な問題等の主体的条件などの、その個人特有のそれぞれの条件にもとづいて情報提供、助言、対話等を行うことにより、学習情報の収集・選択や学習の意欲・能力の獲得などを支援する教育(学習援助)サービスである」とした(西村『こころ生涯学習』学文社、1993年 <http://mito3.jp/seika/0860.txt>)

まさにワーカーの役割と言えよう。そこでは、相談の中で、「相談員も相談者とともに自ら主体性をはぐくむ」ということが大切だと書いた。このように高齢であっても「現在進行形」という構えが必要である。

高齢指導者はどのように活用すれば良いのか(私も求職中の身である)。ある大学では、名誉教授に大人数講義ではなく、1年生の少人数ゼミを担当させ、学科導入教育を行なっている。本稿で言う「個人に合わせた引き出しを示す」というワーカーの姿と共通する考え方に基づいているものと思われる。

そのためには、事務室ではなく、コンツェルジュのようにロビーのデスクに定期的にいって、総合的なワンストップ相談を行なうのが良いと思う。事務室で「多忙の事務を請け負う便利な事務補助」ととらえてはいけない。若者同士の相互関与を深めるというユースワークの特性から言って、場所は事務室でも、相談室でもなく、ほかの人も見守ったり助言したりできるような環境が良いのではないか。デスクには2方向のマルチディスプレイを置いて、相談者本人の言葉を「マインドマップ」に書き込んで構造化してみせると良いだろう。このことによって、「ワーカーをやりたい」というわれわれの志を実現したい。

# むさしのインフォメーションサービス



1982/7/31 むさしのインフォメーションサービス—今までにわかったこと、わからないこと

①さまざまな分野の人から横断的に学ぶこと、②情報提供の意義と課題、③情報整理の方法と工夫について、重要性が明らかになった。そこで、本青年の家では、「むさしのインフォメーションサービス」を意識的に開始した。そこでは、これまでの講師から学んだことを生かし、「ナマ」の「今日的」な情報に重きを置きたいと考えている。東京都武蔵野青年の家所報『しいのみ』31号

<http://mito3.jp/seika/0180.pdf>

# 青少年問題に関する文献データベース

<http://mito3.jp/ydb/>

## 文献検索システム

■ データ全体から検索 [ここをクリック](#)

青少年問題に関する文献データベースについて  
Database of Documents on the Youth Issues (DDYI)

研究代表者 聖徳大学（前徳島大学大学開放実践センター）教授 西村美東士

このデータベースは、今日の青少年問題の動向とその対応との関連を、関連する文献の網羅的調査やキーワード分析などの実証的検討を通して究明することを目的としています。

青少年関連行政の職員や団体関係者、その他広く研究者、関係者の皆様のご利用、及び、ご著書データのアップロード等のご協力をお待ちしております。

なお、政治・宗教・営利に関わるデータなどについては当方の判断で掲載しないこともありますのでご了承ください。

このデータベースは日本学術振興会の平成14、15、16年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の交付をうけて作成されました。

[より詳しい説明](#)

[解題執筆者紹介・青少年問題ドキュメンテーション研究会委員名簿](#)

# 大学教授法入門

## — 大学教育の原理と方法



学習とは、究極的には、学習者個人が学習しようとしてこそ成立しうるものであり、教育はその営みを促進することができるからこそ存在しているはずだ。だとすれば、大学が社会教育から得るものは大きい。なぜなら、社会教育は、学習者の主体性を尊重しながら、その主体性が発揮されるようどう仕掛け、どう援助するかについて、真正面から取り組んできたからである。ママさんコーラスという支持的風土の集団づくりとその中での相互学習の成果なども、その一つである。

実際、ロンドン大学では、小集団討議法やグループワークなどの教授法を大学の教員を対象にしてトレーニングしている（「大学教授法入門」玉川大学出版部）。教員は立派な研究者であるとともに有能な教育者でなければならないからである。

1991/11 生涯学習と大学を考える、全日本社会教育連合会『社会教育』46巻11号、pp.28-29

<http://mito3.jp/seika/0640.pdf>

# 狛プー「講師のいない料理教室」

筆者は、1992年の立上げから現在に至るまで、前出「狛プー」(狛江市中央公民館青年教室)に関わってきた。そこでは、「職業や学業があっても、プータローの自由な精神を」と呼びかけ、参加、参画、不参加の自己決定を保証したうえで(「1年に1回来ればメンバーだ」)、「面白い仲間と出会おう」と提唱した【狛プー&癒しの生涯学習】。

ただし、その頃にはすでに、過去の青年教育における「若者の集い」などの達成能力目標が設定されていない青年事業には若者が集まらなくなっており、メンバーと相談して「講師のいない料理教室」、「紙芝居教室」などのスキル習得型月替りプログラムを展開した。

それにもかかわらず、若者が実際にそこで獲得した一番の能力は、「他者と出会う能力」だといえる。筆者としては、「居場所における自然な対話」を想定していたが、それよりも、レシピを担当したメンバーの一生懸命な気持ち、紙芝居講師のおじいちゃんの指導をせずに自分の出番のための準備をする没入度、メンバーの紙芝居に入れるアドリブのセンス、そういうことへの気づきの体験が、異質と交流する態度を育てていった。そういう意味では、「無目的な居場所論」を超える「目的的な青年教育」の意義が本当はあったのだと感じる。その本質的目的とは何なのか。

■ 2015年10月号『社会教育』青年教育研究30年から見えてくるもの—個人化を育む社会化支援教育の今日的課題

<http://mito3.jp/syohyou/mitoron/3440.html>





# 人と出会うことについて

- チエちゃんの話
- 西村「チエちゃんの話－自己決定の人生と生涯学習」徳島学遊塾『ぶどうの木』1998年  
<http://mito3.jp/seika/1640.pdf>

# 見知らぬ他者と出会う

- ネットとは異なるワークショップの効果  
「見知らぬ人とも出会いたくなる」

- <http://mito3.jp/201710syakyo/2000.pdf>

2日間の「生涯学習概論」の授業で、学生がどのように自己や他者に対する気づきを得たのか、その変容の過程を解明することによって、学生の自己決定能力を高める授業の構成要素とその効果を明らかにした。第1に、ワークショップ型授業によって、即自から対自へ、対自から對他者へと学生の気づきが促され、對他者から再び対自や即自のより深い気づきへと循環する過程が明らかになった。第2は、学生の自己決定能力の到達段階の把握に基づく戦略的な指導内容と授業構成の必要性が明らかになった。

# ワークショップの場合 役割提供、表現支援、受容、課題解決、揺さぶり

2000年11月ワークショップ型授業の構成要素とその効果－学生の自己決定能力を高める授業方法、  
『大学教育学会誌』22巻2号、pp.194-202

今回の授業における指導者の行為は、課題提示(問いかけ)、紹介(読み上げ)、回答(レスポンス)、指示(ワークの進め方)が頻繁に行なわれた。そのことによって、役割提供機能(ワーク)、表現支援機能(文章、話し合い、発表)、受容機能(学生の表現への評価)、課題解決機能(気づきの促進)、揺さぶり機能(固定概念の打破)を発揮していたと推察できる。

# 異質の他者との出会い

- トランジション(スムーズな移行)＝クラブ・サークル活動やアルバイトによる「豊かな人間関係」については、「良好な友達づきあい」以上の質が求められ、異質な他者からの影響が大きい。なお、「勉学第一」とした者は良い結果にならなかった。
- 中原淳, 溝上慎一「活躍する組織人の探究: 大学から企業へのトランジション」東京大学出版会、発売日: 2014/3/28

# 他者と出会う意味を考える

[http://mito3.jp/ccc/04\\_game.html](http://mito3.jp/ccc/04_game.html)

大学授業「社会教育演習」における「第一印象ゲーム」の効果について考える

第一印象ゲーム振り返り等 14分

# 出会いを体験する

## [第一印象ゲーム]

水面下の理由や判断基準を知ることによって自他理解を深める

## [価値観ゲーム]

異なる価値観をもつ他者と「共存」を超えて「共有」するための方法を身につける

参考 坂口順治「実践・教育訓練ゲーム」日本生産性本部

1 2 3 4 5 6 7


名前

問 1

好きな季節

- 1, 春
- 2, 夏
- 3, 秋
- 4, 冬

印象  
正解  
採点

問 2

好きな食べ物

- 1, 和食
- 2, 洋食
- 3, 中華
- 4, その他

印象  
正解  
採点

問 3

やってみたい職業

- 1, タレント
- 2, 作家
- 3, 実業家
- 4, 総理大臣

印象  
正解  
採点

問 4

行きたい外国  
(自由記述)

印象  
正解  
採点

問 5

好きな色  
(自由記述)

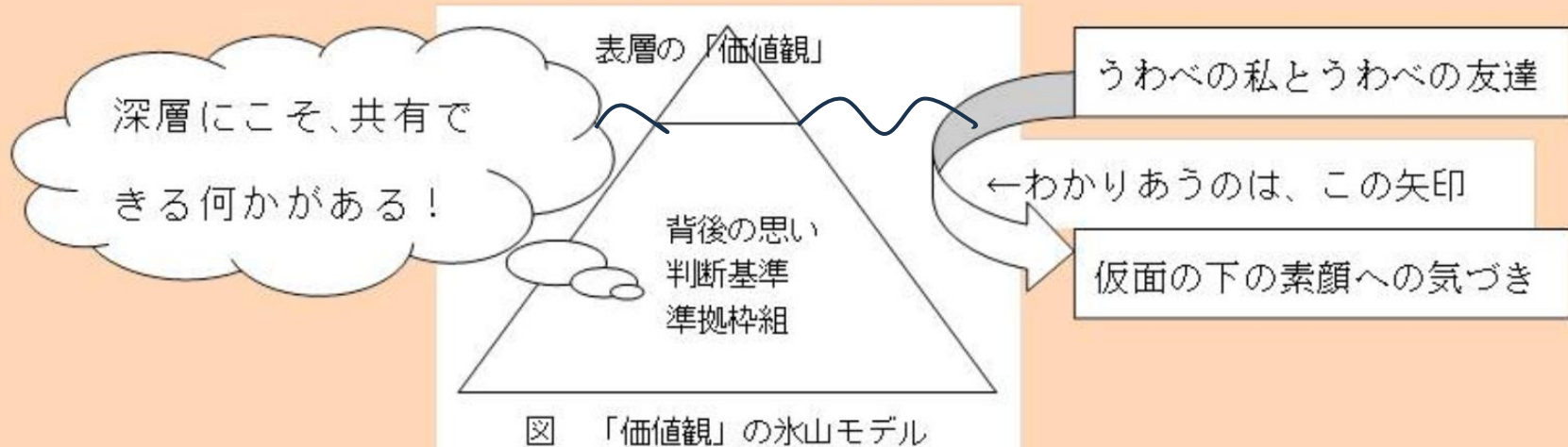
印象  
正解  
採点  
得点

「ア」には「あ」の逆を書き込む

～に ～は	愛	健康	自己 実現	富	奉仕	正義	得点 ○の数	順位
愛		☆あ	い	う	え	お	=	番
健康	★ア		か	き	く	け	=	番
自己 実現	イ	カ		さ	し	す	=	番
富	ワ	キ	サ		た	ち	=	番
奉仕	エ	ク	シ	タ		な	=	番
正義	オ	ケ	ス	チ	ナ		=	番
計							15	



# 出会いの冰山モデル



# 学校教育の課題

- グーグルドキュメント活用事例

<https://docs.google.com/spreadsheets/tLQsMII93shuIYhCbPjS8BGG3Z6wLU-c/edit?usp=sharing>



[H](#)  
[M](#)

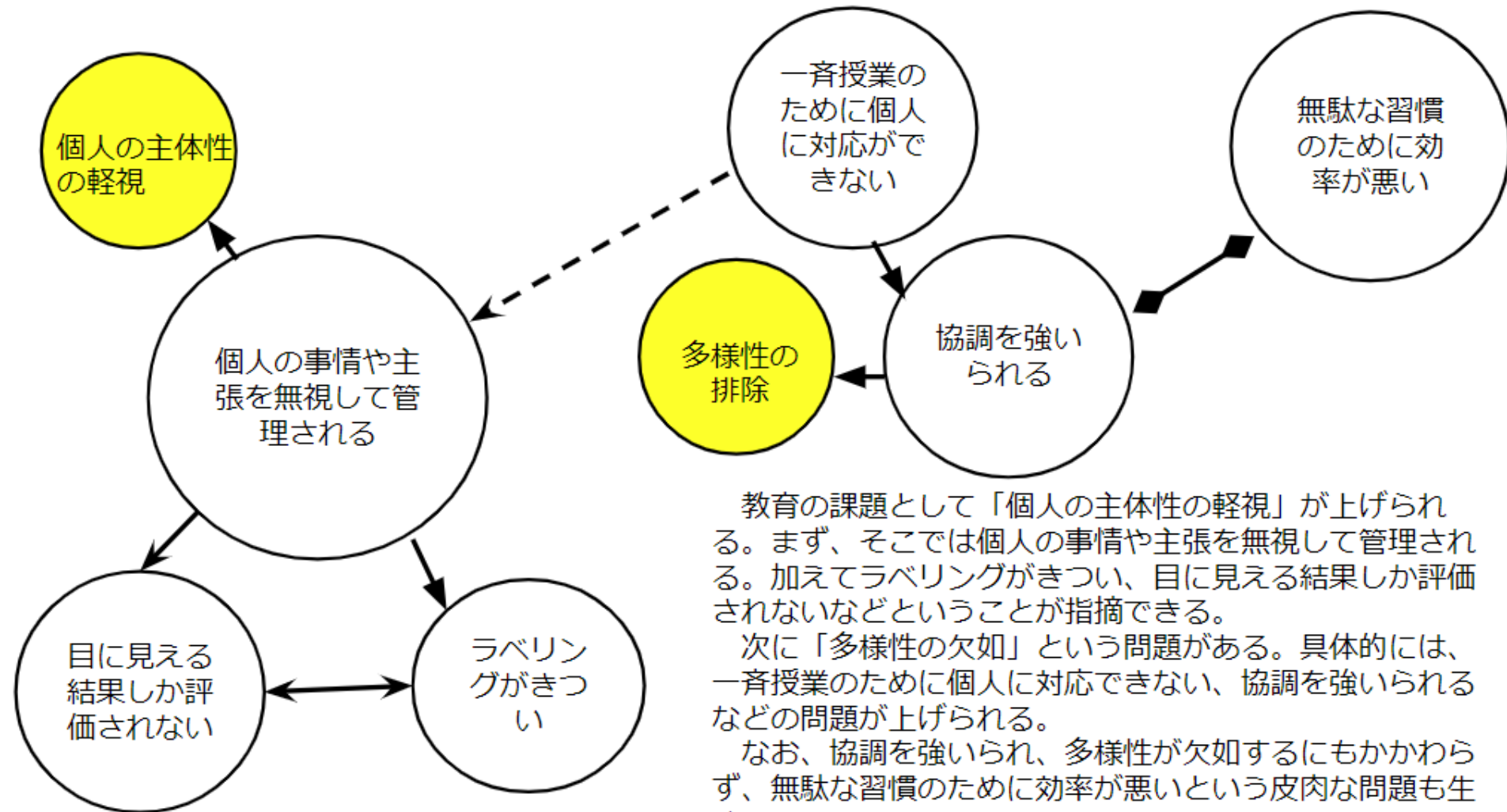
- グーグルスライド活用事例

<https://docs.google.com/presentation/6WSzqKy22qGrIRGvBD0iDAIBpmd8Nes/edit?usp=sharing>



[o](#)  
[L](#)

## 教育の課題



# 生涯学習時代における 学校教育の課題を考える

- 参考動画資料

<https://www.youtube.com/watch?v=BzVSGqWQjiA>

社会に開かれた教育課程の実現について

文部科学省 10分

[https://www.youtube.com/watch?v=8RKzKGzB\\_](https://www.youtube.com/watch?v=8RKzKGzB_)

[IE](#)

名物校長と考える学校改革「トップダウンじゃないことが一番大事」 19分

# イエナプランという新しい教育

閉鎖的な思考に向けた教育から**包括的な思考に向けた養育**へ、**学校現実の非人間性と非民主制から人間化と民主化**へ、**対話なき教室から対話**へ、**機械的教育から教育の人類学化**へ、**非真正(偽物)から本物**へ、**不自由から自由**へ、**批判的思考をしないようにする教育から批判的思考に向けた養育**へ、**非創造性から創造性**へという教育の転換を実現しようと主張する。

保護者については、子どもと同様に、**対話・遊び・仕事・催し**を通して、**学校参加が促される**と言う。本書の言を借りれば、**学校が、地域の人々にとっての「生と学びの共同体」**になることこそ、**学社融合の今後の姿**なのだろうと評者は考える。



また、学校を「ありのままの社会の姿を映し出す鏡」として、社会のあらゆる階層の人々が集まる社会にしようとする。そのため、学校を、子どもを中心として、子どもたちの育みに関わっている大人たちとともに構成される「生と学びの共同体」として、未来の理想的な社会を先

本書は、グローバル時代において、シチズンシップ(市民的態度)を学習させることの重要性を説く。「主体的・対話的で深い学び」については、子どもたちの活動の必要に応じて教室内や学校内を自由に主体的に動くことを保障するとともに、静かに一人で学ぶための場所や時間を意図的に用意する。このような動きと選択の自由が、責任意識や自治につながり、学びのオーナーシップ(当事者意識)を生むことを目指している。



今こそ日本の学校に!  
イエナプラン実践ガイドブック

リヒテルズ直子 著  
2420円 教育開発研究所  
★03-3815-7041

保護者については、子どもと同様に、対話・遊び・仕事・催しを通して、学校参加が促されると言う。本書の言を借りれば、学校が、地域の人々も含めた「生と学びの共同体」になることこそ、学社融合の今後の姿なのだろうと評者は考える。  
(前)聖徳大学教授・西村美東士

取りし実現しようとする。他方、健全であるべき育ちが、むやみに外部からの影響にさらされることのないよう、学校の「独立」を重視する。  
このようにして、閉鎖的な思考に向けた教育から包括的な思考に向けた養育へ、学校現実の非人間性と非民主制から人間化と民主化へ、対話なき教室から対話へ、機械的教育から教育の人類学化へ、非真正から真正(ホンモノ)へ、不自由から自由へ、批判的思考をしないようにする教育から批判的思考に向けた養育へ、非創造性から創造性へという教育の転換を実現するよう訴える。

リヒテルズ直子『今こそ日本の学校に! イエナプラン実践ガイドブック』教育開発研究所2019/8/30  
<http://mito3.jp/syohyou/html/3980.html>

# イエナプランという新しい教育

学校教育の革新 イエナプラン

日本イエナプラン教育協会ホームページ

<http://www.japanjenaplan.org/jenaplan>

検索語

イエナプラン

しなのイエナプランスクール・大日向小学校紹介

現役小学校教諭が伝えるオランダ・イエナプラン教育

# 麴町小学校の非常識な教え

しつけについては、次のように言う。叱る基準・しつけの優先順位を決めていけば、叱る頻度が減り、大人も子どもも不要なストレスを抱えなくてすむ。子どもとの付き合い方もかわる。さらに「本当にダメなこと」がはっきりと子どもに伝わるようになるので、子育てが楽になる。言わなくてもいいことはできるだけ言わない心がけが重要である。

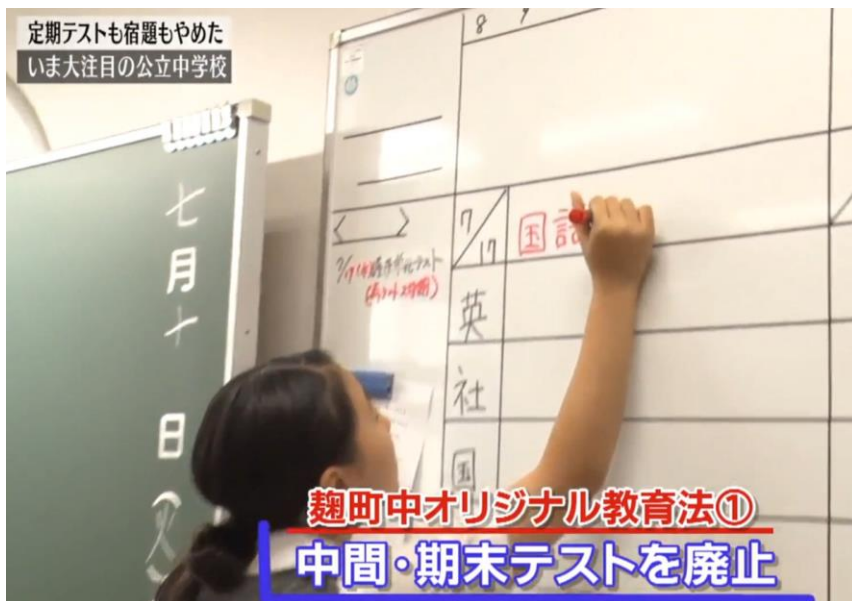
著者は、「ルールを守らせることに必死な大人」に警告を発する。土曜日に重い勉強道具でも自宅勉強のために全部持ち帰るよう指導し、子どもが共有部に隠すようになると教員が必死に探し出す。著者は「そのあまりのくだらなさにあきれてしまった」と言う。学校だけで通用させている「常識」が、社会的には「あまりにくだらないこと」である危険性には十分注意したいものだと言評者も考える。



工藤 勇一 (著)  
 麴町中学校の型破り校長 非常識な教え  
 (SB新書)(2019/9/6)  
 発売日： 2019/9/6

<http://mito3.jp/syohyou/html/4000.html>

# 麴町小学校の非常識な教え



検索語 工藤勇一



# 学び合いと支え合い

## ◆他者と出会う意味を考える

大学授業「社会教育演習」における「第一印象ゲーム」の効果について考える

第一印象ゲーム振り返り等 14分

# 学習か勉強か



社会教育関係者の間には、「勉強」という言葉は「つとめしいる」だから強制的な意味合いが強いと決めつけ、それに比して「学習」という言葉は即主体的行為であるから好ましいとする議論がある。これについて触れておきたい。

「学習」の「学」はすでに述べたように「臼」(両方の手)で知識を授けられることであり、「まねぶ」(まねをする)ことでもある。「習」の「羽」と「白」は「ひな鳥がくりかえしはばたいて飛ぶ動作を身につける意」であるから、「ならう、なれる」ことである。たしかに、「学習者側からの表現」と言うことはできるが、与えられた「教育目標」に対しては無批判的に受け入れることを前提とした言葉であると言えなくもない。「学習会」などというと、無意識のうちにもどうしてもそういうニュアンスで感じとられてしまうのではないか。


これに対して、「勉強」という言葉については、「勉強会ブーム」やパソコン通信のアーティクル(通信記事内容)にしばしば見かける「私も勉強しておきます」などの表現に、新しい意味を見いだすことができる。「勉強」の「勉」は、「力」(りきむこと)と「免」(女がしゃがんで出産するさまの象形)である。「無理をおしてはげむ」ことである。「強」も「無理をおす」という意味である。その語感に軽やかな楽しさがないのは否めないが、他者からの強制を必然的にともなうものという意味は含まれていない。ここで、「学習」という言葉をしいて「勉強」に置き換えようと提言しようとするわけではないが、市民の「勉強志向」をあなどらずに援助することの必要については強調しておきたい。

1991/4 「生涯学習か・く・ろ・ん — 主体・情報・迷路を遊ぶ —」学文社

[http://mito3.jp/kakuron\\_all.txt](http://mito3.jp/kakuron_all.txt)

# 文化の格差


西原氏は、「姫キャラ」を含めた広義のプリンセスについて、三〇代、四〇代の女性が社会貢献活動などによる努力型であったのに対して、一〇代後半から二〇代は、「生まれながらの」自分らしさ表現型だと言う。そこでは、「男性から見られる」という意識から解放され、「女子としての自分」という満足があるというのだ。永田夏来氏は、量的調査の結果から、「夏フェス女子」は、幼少期に美術館・博物館訪問やクラシック視聴を経験した者が多いと言う。そして、このような「文化資本の高い女性」が、「夏フェス」での写真写りの良さと「かわいい」をネットで発信しているという。以上の楽しみを、吉光氏は、「心躍ることや心囚われることに尽きない現代人の暮らし」と表現している。



**ブック**

この本は、「かわいい」が、古典的な女らしさから、自分らしく生きたいと願う女子たちの希望の表れに変わったとして、ゲーム、ロック、歴史、ハロウィン、メイド、島ガールなどで

追求する。「かわいいの氾濫は文化的未成熟の表れ」という批判に対しては、池田氏は、女性の活動領域の拡大など、社会がより多様性を求める時に必要となる感性ととらえる。従来の男性的とされていた領域に、もっと別のセンスや価値観を持ち込むことによって、男女とも心地よくその領域に関われるようになる」と言うのだ。



ポスト〈カワイイ〉の文化社会学  
女子たちの「新たな楽しみ」を探る

吉光正絵、池田大臣、西原麻里 編著  
3780円 ミネルヴァ書房  
☎075-581-5191

「生まれながらの」自分らしさ表現型だと言う。ここでは、「男性から見られる」という意識から解放された「女子としての自分」の満足があるという。永田夏来氏は、量的調査の結果から、「夏フェス女子」は、幼少期に美術館・博物館訪問やクラシック視聴を経験した者が有意に多いと言う。そして、この

ような「文化資本の高い女性」が、「夏フェス」での写真写りの良さと「かわいい」をネットで発信しているという。以上を、吉光氏は、「心躍る楽しみ」と表現している。評者は考える。人には個人や社会人としての成長とは別に、そのこと自体が癒しや「心躍る楽しみ」になる時間が大切だ。それが社会における新しい価値や文化の創造につながる。しかし、そこに格差があるとすれば、教育は、貧困な子どもに対して、文化資本提供の手を差し伸べることも考えたい。

(聖徳大学教授・西村美東士)

ポスト〈カワイイ〉の文化社会学  
—女子たちの「新たな楽しみ」を探る—  
<http://mito3.jp/syohyou/html/3670.html>

登山はなんといっても単独行！！と  
葛飾区生涯学習推進委員の山歩き  
サークルリーダーは答えた。  
本当は単独行が好きなのに・・・なぜ？



# ボランティア 異質との出会い

大学生については、氏は他著で、社会人調査の結果から、大学在学時に「勉学第一」とした者は、仕事では良い成果を出していないと指摘している。組織での成功のためには、学生時代に「良好な友達づきあい」以上の質の「豊かな人間関係」による、異質な他者からの影響が大きいというのだ。

<http://mito3.jp/syohyou/html/3470.html>

「部活動」、「交友通信」、「読書マング傾向」、「ゲーム傾向」、「行

溝上氏は、クラスター分析により、「勉学」、「勉学その他」、「対人関係・課外活動」、「キャリア意識」の重要性が示唆されたという。また、対人関係力の弱い生徒は、知識習得型からアクティブ型への学習の「拡張」についていけないという新たな仮説も提示している。

## どんな高校生が大学、社会で成長するのか

「学校と社会をつなぐ調査」からわかった伸びる高校生のタイプ

著者 溝上 慎一  
京都大学高等教育研究開発推進センター・河合塾 編

溝上慎一 責任編集 / 京都大学高等教育研究開発推進センター・河合塾 編  
2592円 学事出版 ☎03-3255-5471

立が大学生になってからの主体的態度につながるかどうかを今後の追跡調査の課題としている。評者は、高校生から大学生への「移行」において、部活動の積極性を越えたレベルでの自己開発と社会的関与に関する態度変容が求められるのではないかと思う。

(聖徳大学教授・西村美東士)

氏は、勉学タイプにおける部活動と学習の両立が大学生になってからの主体的態度につながるかどうかを今後の追跡調査の課題としている。評者は、高校生から大学生への「移行」において、部活動の積極性を越えたレベルでの自己開発と社会的関与に関する態度変容が求められるのではないかと思う。

## ブック

溝上氏らは高校生の学習や生活が、大学での学びや社会に出てからの仕事や人生に与える影響を明らかにするため、2013年に全国の高校2年生約4万5千人から回答を得た。その後、

事不参加の7タイプを導き出す。勉学タイプは、8割が部活動と両立しており、「よく学び、将来に向けて頑張り、自己成長を実感している」タイプとされる。しかし、大学生については、氏は他著で、社会人調査の結果から、大学在学時に勉学第一とした者は、仕事では良い成果を出していないと指摘する。組織での成功のためには、学生時代に良好な友達づきあいや、質の豊かな人間関係による、異質な他者からの影響が大きいというのだ。どちらも実感できる話だ。

# 「教育とは何か」を考えよう 1

西村美東士「生涯学習と市民参加」、望月雅和『子育てとケアの原理』第6章、2018年4月13日、北樹出版

(以下たんに自著「生涯学習と市民参加」と呼ぶ)

私たちは子どもの頃から自然と「教育」を受けているが、実は「教育とは何か」と問われると、よくわからなくなる。それは、学校教育だけを見て、教育を語ろうとしているからではないだろうか。

教育とは、学校以外にも家庭、地域、職場、社会のさまざまな身近なところで、人が生きる上での大切な側面を扱ってきた活動である。それらの教育の中心にいる個人は、時には教育に疑問を感じ、時には教育を受け止めて成長する。

# 「教育とは何か」を考えよう 2

青少年について見てみると、彼らが自らの考えかたを確立し、社会にどうかかわるか、ポジショニング（位置決め）支援が求められている。そのほか、われわれの調査研究からは、1人で生き、1人で課題を解決するという個人完結型から、個人は社会のかかわりを大切にする社会開放型に転換することが大事だということもわかってきている。こうしたテーマにもふれながら、教育とは何か、生涯学習とは何かという本質に接近していきたい。



# 生涯学習とは何か

- 人々が自己のものの見方・考え方を生涯にわたる学びによってより発展させ、暮らしや仕事を充実させる自己決定の活動。
- 同時に、たがいに学びあい、支えあうことによって、地域や社会を形成する相互関与の活動。



# 生涯学習と生涯教育

昭和56(1981)年中央教育審議会答申『生涯教育について』

生涯学習 「今日、変化の激しい社会にあって、人々は、自己の充実・啓発や生活の向上のため、適切かつ豊かな学習の機会を求めている。これらの学習は、各人が自発的意思に基づいて行うことを基本とするものであり、必要に応じ、自己に適した手段・方法は、これを自ら選んで、生涯を通じて行うものである。その意味では、これを生涯学習と呼ぶのがふさわしい。」

生涯教育 「この生涯学習のために、自ら学ぶ意欲と能力を養い、社会の様々な教育機能を相互の関連性を考慮しつつ総合的に整備・充実しようとするのが生涯教育の考え方である。言い換えれば、生涯教育とは、国民の一人一人が充実した人生を送ることを目指して生涯にわたって行う学習を助けるために、教育制度全体がその上に打ち立てられるべき基本的な理念である。」

# 「学習」の独走

臨教審(昭和59(1984)～62(1987)年)「ここでは学校教育および職業能力開発に関する学習活動のほか、スポーツ活動、文化活動、趣味・娯楽、ボランティア活動、レクリエーション活動など、人間が生涯にわたって豊かに生きていくため自ら向上を目指したり、活動自体に楽しみを見い出す主体的な活動を『学習』としてとらえた」(臨時教育審議会『審議経過の概要その3』第2章、昭和61(1986)年)。

# 生涯学習の定義

## 自己管理型学習 (Self-Directed Learning)

平成2年(1990年)中教審答申

「生涯学習の基盤整備について(答申)」

- 1) 生涯学習は、生活の向上、職業上の能力の向上や、自己の充実を目指し、各人が自発的意思に基づいて行うことを基本とするものであること。
- 2) 生涯学習は、必要に応じ、可能なかぎり自己に適した手段及び方法を自ら選びながら生涯を通じて行うものであること。
- 3) 生涯学習は、学校や社会の中で意図的、組織的な学習活動として行われるだけでなく、人々のスポーツ活動、文化活動、趣味、レクリエーション活動、ボランティア活動などの中でも行われるものであること。

# よりよい社会を作り出す図書館の役割

- 社会形成者の育成

池上彰「民主主義と公民館運動」

[https://www.youtube.com/watch?v=nbaUaxgv3](https://www.youtube.com/watch?v=nbaUaxgv3HM)

[HM](https://www.youtube.com/watch?v=nbaUaxgv3HM)

# ユネスコ公共図書館宣言1994

社会と個人の自由、繁栄および発展は人間にとっての基本的価値である。このことは、十分に情報を得ている市民が、その民主的権利を行使し、社会において積極的な役割を果たす能力によって、はじめて達成される。建設的に参加して民主主義を発展させることは、十分な教育が受けられ、知識、思想、文化および情報に自由かつ無制限に接し得ることにかかっている。

地域において知識を得る窓口である公共図書館は、個人および社会集団の生涯学習、独自の意思決定および文化的発展のための基本的条件を提供する。

この宣言は、公共図書館が教育、文化、情報の活力であり、男女の心の中に平和と精神的な幸福を育成するための必須の機関である、というユネスコの信念を表明するものである。

したがって、ユネスコは国および地方の政府が公共図書館の発展を支援し、かつ積極的に関与することを奨励する。

## 2012年12月「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」のポイント(薬袋秀樹)

- 【ポイント1】課題解決支援サービスが必要(可能)であることを明確に示したこと
- 【ポイント2】図書館のサービス・運営の具体的な在り方を示したこと
- 【ポイント3】図書館経営の方法を示したこと
- 【ポイント4】目標基準例を示したこと
- 【ポイント5】必要な図書館予算を確保するのは誰か？市町村か、都道府県か、国か？

# 2012年12月「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」

## 【ポイント1】課題解決支援サービスが必要(可能)であることを明確に示したこと

・図書館が地域社会に貢献するには、従来のサービスを提供するだけでなく、地域の課題解決を支援するサービスを行う必要がある。

・図書館は、この基準を手がかりとして、地域の様々な課題の解決に役立つことを具体的な事例と関係者の意見によって示すことができる。図書館側では、そのための説明資料の用意が必要である。

・図書館は、これまでも、それらの課題の解決に貢献しており、その充実・発展を図るものである。貸出サービスによる読書支援と並行して行うべきものであり、貸出サービスでは、課題解決に役立つ図書の貸出を伸ばすことをめざす。

・図書館には、課題解決支援サービスの具体例を実際に示すことが求められている。

## 【ポイント2】図書館のサービス・運営の具体的な在り方を示したこと

・図書館が行うべきサービス・運営のチェックリストとして用いることができる。この内容を適切に理解し実施するには、図書館は、関係資料によって具体的な内容や方法を学ぶ必要がある。

・図書館サービスの基礎は貸出サービスや予約サービスである。

・インターネットの普及、人口の減少等の今後の社会の変化を予測した対応が必要である。「情報活用能力」の学習などが重要になると考えられる。

# 2012年12月「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」

## 【ポイント3】図書館経営の方法を示したこと

- ・図書館経営の中心は、公立図書館による自己点検、自己評価である。「基本的運営方針」「目標」「指標」「当該年度の事業計画」は公立図書館が自分で策定・選択する。
- ・都道府県教育委員会は、自己点検・評価を奨励し、その実施状況を調査することが望ましい。図書館経営には専門知識が必要になるため、地方自治体間の情報交換・経験交流が必要になる。

## 【ポイント4】目標基準例を示したこと5)

- ・「目標」には「数値目標」と「質的目標」がある。数値目標の設定方法と「目標基準例」は、「望ましい基準」には含まれておらず、「協力者会議報告書」の「参考資料」2に示されている。
- ・これは、全国市町村立図書館の人口段階別貸出密度(住民1人当たり貸出資半徴)の上位10%の市町村の25項目に関する平均数値で、実質的には上位5%の数値で、これによって、高い目標基準例を示すことができた。これをもとに「数値目標」を定め、自己評価に用いることが期待されている。
- ・目標基準例の具体的な活用方法(数値目標の設定の仕方)の検討、統計数値のない項目(レファレンスサービス、障がい者サービス、学校支援等)に関する目標基準例(サービス水準例)の調査・探索が必要である。

## 【ポイント5:必要な図書館予算を確保するのは誰か？市町村か、都道府県か、国か？

- ・図書館予算を確保するのは、最終的には、未利用者を含む住民である。住民の支持が必要である。
- ・図書館関係者は、住民に対して、さらには議会・行政関係者に対して、読書や情報、図書館の意義、図書館の利用方法について、あらゆる手段を駆使して説明する必要がある。



# 情報サービス・地域課題への対応

## (二) 情報サービス

- ①市町村立図書館は、インターネット等や商用データベース等の活用にも留意しつつ、利用者の求めに応じ、資料の提供・紹介及び情報の提示等を行うレファレンスサービスの充実・高度化に努めるものとする。
- ②市町村立図書館は、図書館の利用案内、テーマ別の資料案内、資料検索システムの供用等のサービスの充実に努めるものとする。
- ③市町村立図書館は、利用者がインターネット等の利用により外部の情報にアクセスできる環境の提供、利用者の求めに応じ、求める資料・情報にアクセスできる地域内外の機関等を紹介するレフェラルサービスの実施に努めるものとする。

## (三) 地域の課題に対応したサービス

市町村立図書館は、利用者及び住民の生活や仕事に関する課題や地域の課題の解決に向けた活動を支援するため、利用者及び住民の要望並びに地域の実情を踏まえ、次に掲げる事項その他のサービスの実施に努めるものとする。

ア就職・転職、起業、職業能力開発、日常の仕事等に関する資料及び情報の整備・提供  
イ子育て、教育、若者の自立支援、健康・医療、福祉、法律・司法手続等に関する資料及び情報の整備・提供

ウ地方公共団体の政策決定、行政事務の執行・改善及びこれらに関する理解に必要な資料及び情報の整備・提供

# これからの司書に求められる資質・能力

司書資格取得のために大学において履修すべき図書館に関する科目の在り方について(報告) 平成21年2月「これからの図書館の在り方検討協力者会議」

○図書館は、住民の身近にあって、図書やその他の資料を収集、整理、保存し、その提供を通じて住民の学習を支援するという役割に加え、特に近年は、**地域が抱える課題の解決を支援するための図書館サービスを行うこと**が求められている。平成20年2月の中央教育審議会答申「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について」においても、図書館について、**社会教育施設の中でも利用度の高い、いわば「地域の知の拠点」として、今後も国民が生涯にわたって自主的な学習を行っていく上で、大きな役割を果たしていくことが期待されている**と指摘されている。

○社会の変化に対応して図書館を改革し、地域を支える知の拠点として必要な機能を備えた「これからの図書館像」を実現するには、司書が、**地域社会の課題や人々の情報要求に対して的確に対応できるよう、図書館に関する基礎的な知識・技術とともに、課題解決を支援するための行政施策・手法や図書館サービスの内容と可能性を理解することが必要**である。また、情報技術に関する知識、法制度や行政に関する知識、**図書館の経営能力を身につけ、特にコスト意識や将来のビジョンをもつことが重要**である。

# 第2次相模原市図書館基本計画

## I 基本的な考え方

1 基本理念

2 基本目標

## II 施策の方向・主な施策

基本目標1（個人の生涯学習）

基本目標2（まちづくり）

基本目標3（青少年）

基本目標4

3 成果指標

# 持続可能な開発目標（SDGs）と図書館との関係 1

第2次相模原市図書館基本計画より

持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）は、平成27（2015）年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された平成28（2016）年から令和12（2030）年までの国際目標です。持続可能で多様性と包摂性のある社会を実現するための17のゴールから構成され、**地球上の誰一人として取り残さない**（leavenoonebehind）ことを誓っています。

# 持続可能な開発目標 (SDGs) と図書館

## 館との関係 1 第2次相模原市図書館基本計画より



# 持続可能な開発目標 (SDGs) と図書館との関係 2

第2次相模原市図書館基本計画より

## 本計画において、特に関連の深いゴール



「4 質の高い教育をみんなに」



「10 人や国の不平等をなくそう」



「11 住み続けられるまちづくりを」



「17 パートナースhipで目標を達成しよう」

# 学び合いと支え合い

## 【生涯学習とは】

生涯学習とは、人々が、生涯のいつでも、どこでも、自由に行う学習活動のことで、学校教育や、公民館における講座等の社会教育などの学習機会に限らず、自分から進んで行う学習やスポーツ、文化活動、趣味、ボランティア活動などにおけるさまざまな学習活動のことをいいます。生涯学習は、自己の充実・啓発や生活の向上等のため、必要に応じて、各人が自発的意思に基づき、自己に適した手段・方法により行われており、その内容は、文化活動やスポーツ活動、レクリエーション活動、ボランティア活動から、職業や資格に関する学習、趣味等の習い事など、多岐にわたっています。

さらに、佐野市においては、生涯学習のもう一つの側面である、自己の充実とともに、人々が地域で学びあい支えあって、佐野市をより良いまちにしようとすることを重要としています。そのため、「私らしさこのまちに咲かせます」というキャッチフレーズのもとに、「第1次佐野市生涯学習推進基本構想・基本計画」を策定、推進してきました。「第2次佐野市生涯学習推進基本構想・前期基本計画」においても、この側面を重要としています。

[第2次佐野市生涯学習推進基本構想・前期基本計画 \(PDFファイル: 21.6MB\)](#)


# 【書評】「関係性の貧困」に生きる少女たち

店長は、少女の話を聞き、励まし、ほめて叱り、居心地の良さを与える。リーダーになりそうな少女については、過ごしやすいルール作りや客の喜ぶオプションを考えさせて、やりがいを持たせる。受験を控えている少女には学習支援を行い、厳しい家の子にはアリバイづくりの協力をし、金銭管理ができない少女には貯金代講サービスも行う。オーナーはときどき来て、「君には期待している」などと声をかけ、少女を喜ばせる。また、日常的には、スカウトを通してフォローし、うまく適応できない少女には他の店を紹介したりする。「お前の夢はなんだ」など、プライドを持たせるワークショップを行っている店もある。このようにして、卒業後も、系列の風俗店で倒を見るところという。

ブック

「普通少女」や「ルールに従順なタイプ」などの「扱いやすいタイプ」も登場する。客の性的欲望への対応が苦痛なのは、すべての少女に共通しているが、「わかってくれる大人がいない」という「関係性の貧困」の中で、このような仕事にもプライドを持つとうとする。

スカウトは、個人のタイプやニーズに合わせて、こまめに連絡をし、店につなぐ。店長は、少女の話を聞き、励まし、ほめて叱り、居心地の良さを与える。リーダーになりそうな少女について



女子高生の裏社会  
関係性の貧困に生きる少女たち

本書は、親からの虐待や被害などの心の傷を抱え、「JKお散歩」などの裏社会で働く少女の取材集である。児童相談所や警察については、親に通報されているため敬遠しがちである。

仁藤夢乃 著  
821円 光文社新書  
☎03-5395-8289

は、過ごしやすいルールや客の喜ぶオプションを考えさせて、やりがいを持たせる。学習支援や貯金代行も行う。オーナーはときどき来て、「君には期待している」などと声をかけ、少女を喜ばせる。「お前の夢はなんだ」などというワークショップも行なう。高校卒業後も、系列の風俗店で働けるよう面倒を見る。

評者は考える。  
「みんなを」ではなく、「自分だけを」かまっただけしいという若者の関係性への渴望は、われわれもよく感じるところだ。教育では、これをそのまま受け入れるわけにはいかない。しかし、少女たちを取り巻く「裏社会」は、このような隙間について少女たちを取り込んでいく。これらの「居場所」に対抗して、自己を社会に位置付けることのできる自立のための「居場所」を提供する意義は大きい。それは、卒業後の生涯の充実をも視野に入れたものでなければならぬ。

(聖徳大学教授・西村美東士)

仁藤夢乃『女子高生の裏社会－「関係性の貧困」に生きる少女たち』光文社新書、2014/8/7

<http://mito3.jp/syohyou/html/3280.html>



# 「参画型子育てまちづくりから見た 社会開放型子育て支援研究の展望」

2010/03/31 西村美東士「参画型子育てまちづくりから見た社会開放型子育て支援研究の展望」聖徳大学私立大学学術研究高度化推進事業社会連携研究推進事業『連鎖的参画による子育てのまちづくりに関する開発的研究平成17～21年度研究集録』、pp.1-14

<http://mito3.jp/seika/2820.pdf>

【子育て支援研究の展望】本稿は、「参画型子育てまちづくり」から見た「社会開放型子育て支援研究」の展望を述べたものである。第一に「社会開放型子育て観」への転換プロセスの解明とプログラム開発、第二に「社会開放型子育て観」による研究領域の拡大、第三に「子育て支援学の構築」である。ここで、原理及び関係する学問群・関係学会、歴史、分野・領域・研究対象・テーマ、研究方法・手法群などの各領域における研究を体系的に進めていく必要があるとした。最後に次のとおり研究の展望について述べた。第一は、教育学研究がつねに問題としてきた「学習者の自主的活動」と「教育のもつ目的追求活動」の二項対立を解決する糸口になる。第二は、社会参画理念を実現する道筋を明らかにする。第三は、親の子育て学習に関する統合的アプローチを進める。第四は、「子育て能力の到達目標と構造」をよりより鮮明にする。第五は、子育てに関する工学的アプローチを進める。第六は、共生社会論の現実化への取り組みの可能性である。

# 全校一斉読書への評価と批判

- 広がる「全校一斉読書」 文科省調査で明らかに  
ベネッセ 教育情報サイト
- <https://benesse.jp/kyouiku/200905/20090528-2.html>
- 「毎日やる」「みんなでやる」「好きな本でよい」「ただ読むだけ」の4原則

# 親子読書運動・地域文庫活動

- 子ども読書活動優秀実践団体(者)

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/sports/dokusyo/shouka\\_i/cont\\_002/001.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/dokusyo/shouka_i/cont_002/001.htm)

## 科学読物研究会の例

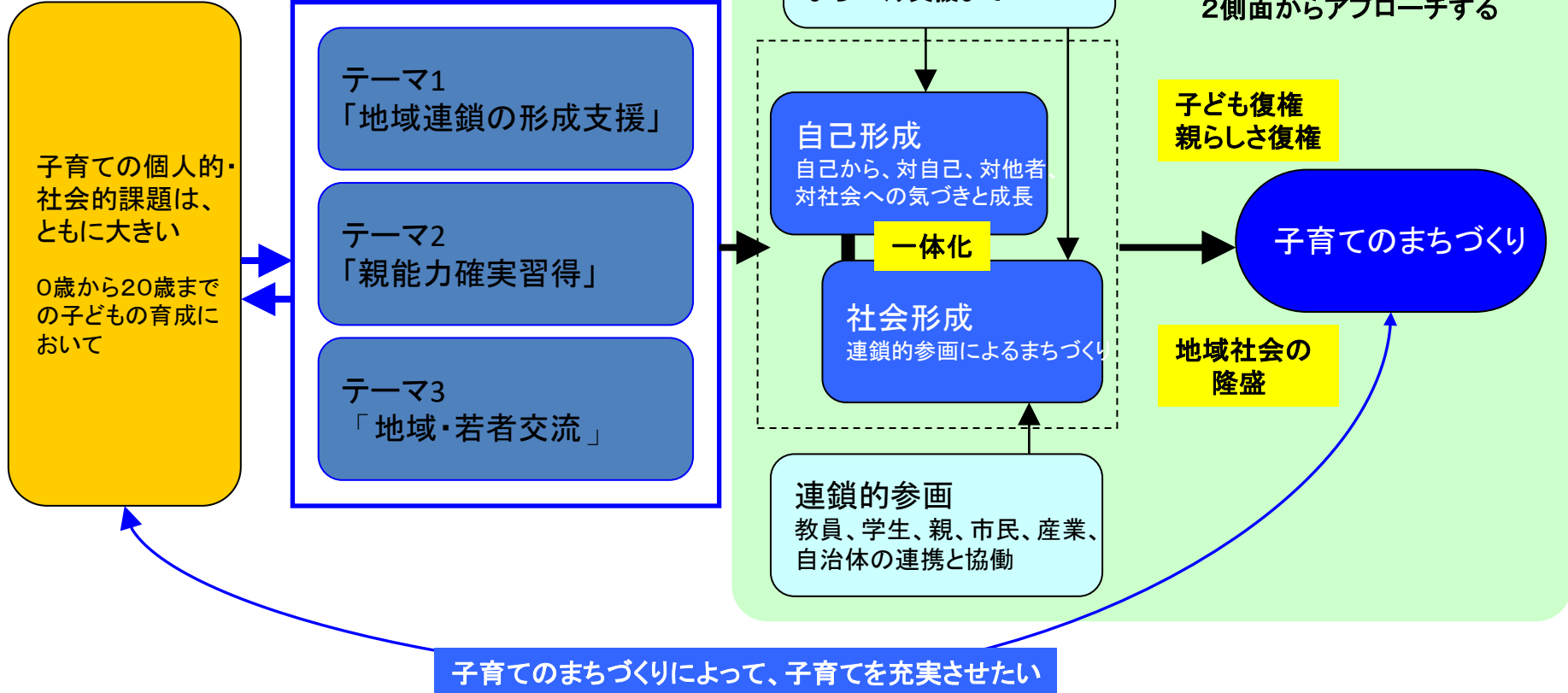
科学読物研究会は、昭和43年に女性科学者吉村証子の呼びかけで発足し、子どもたちが科学の本のおもしろさを知り、科学をもっと楽しむことを願って化学の本の研究、普及、創作に努めている。会員も全国にわたり、子どもを持つ親、文庫関係者、図書館員、小学校から大学までの教師、幼稚園や保育園の先生、作家、画家、編集者など多様な会員がいる。月1回の例会以外にも、新刊研究会、くらべ読みの会、科学あそびの会などの分科会活動も充実しており、長年にわたり、子どもが科学の本を楽しむ機会を与えている。

# 連鎖的参画による子育てのまちづくり

聖徳大学私立大学学術研究高度化推進事業社会連携研究推進事業  
『連鎖的参画による子育てのまちづくりに関する開発的研究録』

少子化インパクトの軽減

子育てを充実し、子どもの良さを発揮させたい



# 地域とつながる

- ◆ 沖縄県立図書館のメッセージを考える
  - 琉球・沖縄の「知と心・文化創造のランドマーク」  
(沖縄県立図書館紹介ガイドPV13分)

# 佐野市：ワークショップによる生涯学習都市宣言文章作成

日本生涯教育学会e事典 西村美東士「佐野市の市民参画による生涯学習推進」

<http://ejiten.javea.or.jp/contentf37a.html>

[http://ejiten.javea.or.jp/doc/50008\\_1.pdf](http://ejiten.javea.or.jp/doc/50008_1.pdf)

宣言文冒頭の「私たち佐野市民は、ひとりひとりが学習をとおして個人として深まり、」は、個人主導の「楽しい」学習による個の深まりを表わしている。

続く「その個性を生かし、協働して佐野のまちづくりに参画します。」は、学習によって深まった個によるまちづくり参画の意義を訴えている。同協議会は、その参画の範疇について、「挨拶から始まる社会形成」という視点から、幅広く、すべての市民が現に行っていることとしてとらえている。これを、「個人主導」としての生涯学習活動と、「社会参画」としてのまちづくり活動との連結ととらえることができる。

次の「たがいに自分らしさを認めあい、支えあい、はぐくみあう仲間をつくります。まちづくりへの参画のなかで、自分らしさを佐野のまちに咲かせます。」は、個の深まりが、支持的風土(図1「支持的風土と防衛的風土」、Gibb、C.A.、1969)の集団において、他者と関わることによってより深まるとともに、「私らしさ」へのニーズを充足させることを表わしている。

同宣言は、市民委員のワークショップスタイル上の観点に基づき、「ふるさと」「環境・安全」「子育て」の3領域について、学習と参画による生涯学習のまちづくり像を示したものと見える。

## 【事例】佐野市生涯学習都市宣言

市の生涯学習の方向性を明確に示し、生涯学習活動を市民に対して広く呼びかけるため、次のとおり「生涯学習都市」を宣言しました。

### 「楽習と参画のまち佐野」都市宣言

私たち佐野市民は、ひとりひとりが楽習をとおして個人として深まり、その個性を生かし、協働して佐野のまちづくりに参画します。たがいに自分らしさを認めあい、支えあい、はぐくみあう仲間をつくります。まちづくりへの参画のなかで、自分らしさを佐野のまちに咲かせます。

私たちはふるさとを守り、はぐくみます。家庭、地域、学校、職場のなかで、世代や価値観の違いを越えた心の交流を広め、安全で安心なまちをつくります。子育てのなかで親が育ち、こどもが愛されて育つまちをつくります。

私たちは佐野のもつすばらしい自然と文化を学びます。ふるさとの自然を守り、ふるさとから文化を発信します。

ここに佐野市を「生涯学習都市」とすることを宣言します。

平成19年12月25日

佐野市

# 「生涯学習関連施設」のとらえ方(佐野市)

佐野市生涯学習拠点マップ(佐野全区) (平成19年3月現在)

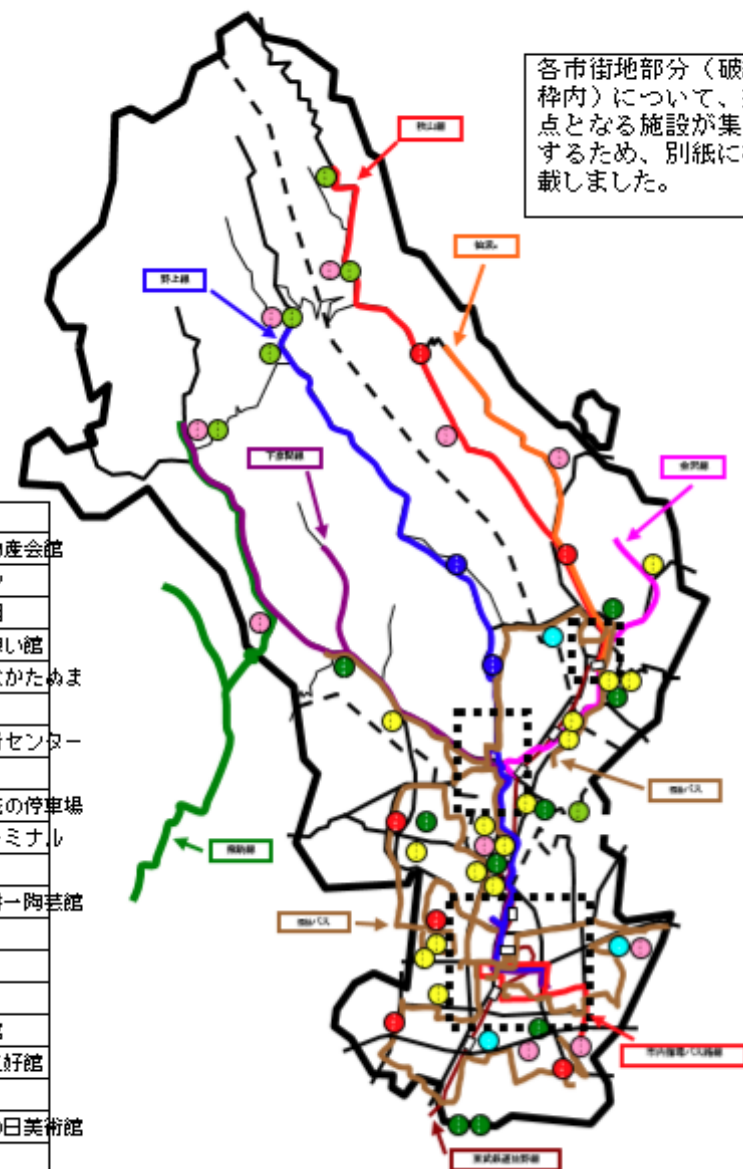
ここでは、公共施設を中心に、各拠点を地図に表示しました。生涯学習や仲間づくり、まちづくりの拠点は、この他にも多く存在します。

いろいろな立場の人たちが、各拠点で活躍し、交流を深めることで、点が線となり、「つながり」が生まれます。各拠点や地域のよさを再認識し、活動を通して「つながり」をもち、われわれのまちをよりよくしていきましょう。そのきっかけとなる「まちづくり参画拠点マップづくり」を、市民の仲間たちに広く呼びかけます。

生涯学習拠点	
103	界地区公民館
106	旗川地区公民館
107	吾妻地区公民館
108	赤見地区公民館
112	常盤地区公民館
113	氷室地区公民館
スポーツ・健康づくり拠点	
201	運動公園
203	中運動公園
206	田沼西運動場
207	新吉水第2公園
210	若宮球場
211	秋山川緑地
213	渡良瀬川野球場
214	渡良瀬川ソフトボール場
地域参画活動拠点	
301	田沼南部地区コミュニティセンター
302	新吉水地区コミュニティセンター
303	栃本地区コミュニティセンター
304	田沼北部地区コミュニティセンター
306	山園地区コミュニティセンター
307	会沢地区コミュニティセンター
310	田沼福祉コミュニティセンター
311	〇生隣保事業相談所
312	大橋町西部集会所
314	赤見町山崎集会所
315	免鳥町集会所
316	並木町田中集会所
317	小見町南小見集会所
318	多田町集会所
319	富士見町集会所

環境のまちづくり拠点	
701	みどり多利用センター
702	〇生清掃センター
703	佐野地区衛生センター
自然体験活動拠点	
801	作原野外活動施設
802	蓬山ログビレッジ
803	貸農園クラインガルテン
804	古代生活体験村・ウッドパーク
805	青少年教育キャンプ場
806	唐沢教育キャンプ場

旅人との交流拠点	
402	みかも山観光物産会館
403	蓬山レストラン
404	根古屋森林公園
405	須花坂公園・憩い館
407	道の駅とまんなかたぬま
408	夕あきやま学寮
409	一農林業家高齢者センター
410	茶室館
412	タアグリタウン花の停車場
413	新都市バスターミナル
郷土学習拠点	
501	人間国宝田村耕一陶芸館
502	郷土博物館
503	〇生伝承館
504	〇生化石館
505	吉澤記念美術館
506	郷土資料保存三好館
507	東石美術館
508	安藤貞寿少年の日美術館
509	三好記念館



各市街地部分(破線枠内)について、拠点となる施設が集中するため、別紙に掲載しました。



# 柏市：すばらしい活動をしている方や深く技を極めている人の情報

## 第3次柏市生涯学習推進計画

[http://www.city.kashiwa.lg.jp/soshiki/280700/p037013\\_d/fil/syakyou-3.pdf](http://www.city.kashiwa.lg.jp/soshiki/280700/p037013_d/fil/syakyou-3.pdf)

### 《3》生涯学習情報の提供

情報化社会と言われている今日では、インターネットの活用は避けて通れません。

現在、運用している「らんらんかしわ」のさらなる充実、インターネットにアクセス出来ない方々への情報発信をさらに強化し、「誰もが、いつでも、どこでも、自由に学ぶ機会として」、生涯学習情報の提供ができるよう、学習情報の提供の充実に努めます。

また、県内で唯一の県立生涯学習施設である、さわやかちば県民プラザとの連携も進めていきます。

柏には、すばらしい活動をしている方や深く技を極めている方が数多くいるため、そういった方々を発掘し、さまざまな形で情報を発信していきます。

「らんらんかしわ」を見ると  
さまざまな情報が掲載されて  
ますよ！



# 図書館での生涯学習推進計画の策定

## 第3次柏市生涯学習推進計画

[http://www.city.kashiwa.lg.jp/soshiki/280700/p034403\\_d/fil/keikaku.pdf](http://www.city.kashiwa.lg.jp/soshiki/280700/p034403_d/fil/keikaku.pdf)

### 3 図書館サービスの方向性

生涯学習拠点としての図書館に関する施策をより具体化するものとして、以下のようにまとめました。

#### (1) 現状と課題

これまで貸出冊数がサービス指標のひとつとして重視されてきましたが、今後は、多様化された図書館の利用形態を鑑み、幼児から高齢者まで、だれもが、いつでも、快適に利用でき、さまざまな知的活動のために時間を過ごすことができる図書館、地域の情報拠点となる図書館をめざすことが必要となります。

また、市民自ら地域の課題を解決できるよう、学習や交流のきっかけづくりを支援していくことも必要です。

特に、子どもの読書活動の推進については、図書館はその重要な役割を果たしていくべきものであると考えられます。

# まちの生涯学習推進に対して図書館 が発言力を持つ

前出「司書資格取得のために大学において履修すべき図書館に関する科目の在り方について(報告)」

平成21年2月 「これからの図書館の在り方検討協力者会議」

○社会の変化に対応して図書館を改革し、地域を支える知の拠点として必要な機能を備えた「これからの図書館像」を実現するには、司書が、**地域社会の課題**や**人々の情報要求**に対して**的確に対応**できるよう、図書館に関する**基礎的な知識・技術**とともに、**課題解決**を支援するための**行政施策・手法**や**図書館サービス**の**内容と可能性**を理解することが必要である。

# 価値の創造


文化を創り出す→価値の創造

新たな社会教育プログラム映画づくりワークショップ13分

# 書評 反転授業

反転授業は一般に「説明型の講義など基本的な学習を宿題として授業前に行い、個別指導やプロジェクト学習など知識の定着や応用力の育成に必要な学習を授業中に行う教育方法」を指す。山内氏らは、「従来の授業では学習内容の説明に授業時間の大半を使うため、個別指導や協調学習など教員や学習者同士の相互作用的な活動に十分な時間を確保することができなかった」とし、「従来の授業相当分の学習をオンラインで授業前に行うことで、知識の定着や応用力の育成を重視した対面授業の設計が可能になる」と主張する。

評者は、次のことを再認識すべきと考える。生徒「みんな」が同様な学習成果をあげるという事実はありえない。学習は本質的に「個人的事象」であるのだから。能力別指導が、ICT活用により個人別指導にまで下りてきて、その上で生徒間協働が図られる条件が整いつつあると感じる。



本書の監修者山内祐平氏は、昨年10月、東京大学で「反転学習社会連携講座」を開講した。翌11月、佐賀県武雄市教育委員会は小学校でのICT環境整備による反転授業試行を発表した。現在、全国の教師がSNSを通して、スキルやコンテンツ共有の活動を行っている。

反転授業は一般に「説明型の講義など基本的な学習を宿題として授業前に行い、個別指導やプロジェクト学習など知識の定着や応用力の育成に必要な学習を授業中に行う教育方法」を指す。

山内氏らは、「従来の授業では学習内容の説明に授業時間の大半を使うため、個別指導や協調学習など教員や学習者同士の相互作用的な活動に十分な時間を確保することができなかった」とし、「従来の授業相当分の学習をオンラインで授業前に行うことで、知識の定着や応用力の育成を重視した対面授業の設計が可能になる」と主張する。

本書では、次のようにそのメリットを挙げて

生徒のなじんでいる言語（メディア）で語りかけられる。（生徒会等）多忙な生徒の時間の自己管理を助ける。自己の理解度や学力に応じて進行管理できる。生徒と教師及び生徒間の関与を増やせる。教師の生徒理解を深める。学習の個別化をもたらす。教室の透明性を高め、保護者自身の学習や学校への態度が変わる。

評者は、次のことを再認識すべきと考える。生徒「みんな」が同様な学習成果を上げるといふことはありえない。学習は本質的に「個人的事象」であるのだから。能力別指導が、ICT活用により個人別指導にまで下りてきて、その上で生徒間協働が図られる条件が整いつつあると感じる。

（聖徳大学教授・西村美東士）

反転授業

ジョナサン・バーグマン、アーロン・サムズ 著  
上原裕美子 訳、山内祐平、大浦弘樹 監修  
1620円 オデッセイコミュニケーションズ  
☎03-5293-1888

BOOK

ジョナサン・バーグマン、アーロン・サムズ  
『反転授業』オデッセイコミュニケーションズ  
発売日：2014/5/20

<http://mito3.jp/syohyou/html/3270.html>

# ICT教育のポイント

森和夫「遠隔授業で成功するには」[技術・技能教育研究所ホームページ](#)

森「いろいろ工夫次第で遠隔授業も楽しみな時間になる。」

スタイル	授業の進め方	特徴	準備すること
①講義まるごと集録型	黒板と語りを中心にした授業で、これを後方座席からビデオカメラで撮影して配信する方法。	・ライブ感覚で集録することができれば評判は良い	<input type="checkbox"/> しっかりした構成を組み立てておく必要がある
②e-Larning型	パワーポイントなどのプレゼンテーション資料を用意しておいて、講義者の顔と同時に画面に出して進行させる方法。	・一見良さそうに見えるが、学生からの魅力は乏しい ・資料は定着できる可能性ある	<input type="checkbox"/> 飽きさせない工夫、課題演習などを組み合わせていくこと
③素材活用品	多種多様な素材を準備しておいて、講義の進行に合わせて提示していく方法	・計画的な構成、展開を仕組むことで良さが出る	<input type="checkbox"/> 素材の魅力と講義内容に合わせた展開がポイントになる
④対話型、演習型授業	数人の学生とオンラインで対話しながら進めていく方法で、大半の学生はそれらを聞く。	・学生にとって身近に受けることが出来る	<input type="checkbox"/> 討議が主役になる。内容を学生の立場で深めることが大切
⑤ライブ感覚型	授業者と一緒に街中に出て、ビデオ集録した内容をポイントに合わせて使用していく方法	・準備さえ良ければ、魅力的ではある ・押さえどころをパワーポイントで整理しておく	<input type="checkbox"/> 施設訪問や職員へのインタビュー、主婦他へのインタビューがポイントになる
⑥テレビショッピング型	スタジオにゲストを招いて、売りポイントをたたみかけるような展開で、休みを与えない強力なプレゼンテーション方法	・明瞭な狙いがあれば、それを中核にして印象づける	<input type="checkbox"/> 構成がしっかりとしていないと、無理押しの内容になってしまう
⑦ビュッフェスタイル型	素材を多種多様に用意しておいて、自由に選択させて学習させ、討論でまとめる方法	・学生の多様な選択肢を大切に讨论に移る	<input type="checkbox"/> 素材の豊かさが大切、討論の持っていくかたに工夫が必要
⑧宿題活用品	前の回で示した宿題を1週間間に提出させて予め分析をしておき、この結果を活用して展開させる	ライブ感覚的に自分の意見をどう扱われるか楽しみになる	<input type="checkbox"/> 提出期限を決めておいて、かつ準備に工夫がいる

# 社会教育の定義 人々の暮らしと仕事に結びついた学習

## 教育基本法 平成18～ 旧

(社会教育)

第十二条 個人の要望や社会の要請にこたえ、社会において行われる教育は、国及び地方公共団体によって奨励されなければならない。

2 国及び地方公共団体は、図書館、博物館、公民館その他の社会教育施設の設置、学校の施設の利用、学習の機会及び情報の提供その他の適当な方法によって社会教育の振興に努めなければならない。

第七条 (社会教育) 家庭教育及び勤労の場所その他社会において行われる教育は、国及び地方公共団体によつて奨励されなければならない。

2 国及び地方公共団体は、図書館、博物館、公民館等の施設の設置、学校の施設の利用その他適当な方法によつて教育の目的の実現に努めなければならない。

# 社会教育の定義 人々の暮らしと仕事に結びついた学習

## 社会教育法

### (社会教育の定義)

第二条 この法律で「社会教育」とは、学校教育法(昭和二十二年法律第二十六号)に基き、学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動(体育及びレクリエーションの活動を含む。)をいう。

### (国及び地方公共団体の任務)

第三条 国及び地方公共団体は、この法律及び他の法令の定めるところにより、社会教育の奨励に必要な施設の設置及び運営、集会の開催、資料の作製、頒布その他の方法により、すべての国民があらゆる機会、あらゆる場所を利用して、自ら實際生活に即する文化的教養を高め得るような環境を醸成するように努めなければならない。

2 国及び地方公共団体は、前項の任務を行うに当たっては、社会教育が学校教育及び家庭教育との密接な関連性を有することにかんがみ、学校教育との連携の確保に努めるとともに、家庭教育の向上に資することとなるよう必要な配慮をするものとする。

(平一三法一〇六・一部改正)



# 成人教育の前提

## ペダゴジーとアンドラゴジー(M.ノールズ「成人学習者」1973年)

[理論的前提]	{ペダゴジー}	{アンドラゴジー}
○自己概念	依存性 dependency	増大する自律性 self-directiveness
○経験	役立たない	豊かな学習資源である
○レディネス	生物学的発達 社会的圧力	社会的役割の発達課題
○時間的展望	待時性	即時性
○学習への導入	科目中心	課題中心
[学習場面の構成]	{ペダゴジー}	{アンドラゴジー}
○学習環境	権威志向 フォーマル 競争的	相互協力 インフォーマル 共働的・他を尊重
○計画立案	教師による	相互的な立案
○ニーズの診断	教師による	相互的な自己診断
○目標設定	教師による	相互的な協議
○学習様式	科目の論理 内容単元	レディネスに対応 問題単元
○学習活動	伝達の技術	実験的方法(探求)
○評価	教師による	相互的なニーズの再診断 相互的なプログラム測定

# 社会教育行政の意義・役割と 一般行政との連携

- 社会教育行政とは何か 図書館設立時は盛り上がったが
- 社会教育行政の課題
- 市民自治との関係
- 生涯学習推進における一般行政の役割

## 【事例】豊島区生涯学習センター機能の実現に向けての意見書 —「人づくり」より「われづくり」—

「人づくり」ということがよく言われますが、行政などが人をつくるのではありません。子どもから大人まで、自らが自らをつくっているとわれわれは考えます。人材育成の本質は、「人づくり」ではなく「われづくり」にあるといえます。同時に、区民一人一人の自己の充実のための学びは、人によって支えられ、地域での区民同士の学びあいと支えあいは、この意見書がめざす生涯学習センターをはじめとする社会的支援機能によって支えられると考えます。

本意見書が要望する生涯学習センターとは、区の全域に広がる多様な学習や地域づくりのための各センターの拠点となる専門的センターです。その「センター・オブ・センター」機能を、区民との協働によって発揮することによって、「つどう・つながる・つなげる・つくりだす」という理想像が実現できるものと考えます。そして、区民一人一人も、そのような環境と活動のなかでこそ、

「われづくり」を味わい、さらには「地域づくり」のなかで自己を発揮し、社会に発信できるのではないのでしょうか。

# 生涯学習推進における一般行政の役割

佐野市生涯学習推進構想(2019~2029)を例にして考えてみよう

## 佐野市総合計画

佐野市生涯学習推進

基本構想・基本計画

佐野市男女共同参画プラン

佐野市環境基本計画

佐野市地域福祉計画

佐野市障がい者福祉計画  
佐野市障がい児福祉計画

その他の計画

# 市民・市民委員・職員の協働を求めて1

西村美東士「生涯学習時代における公運審の役割と課題～異質が水平に交流する出会いと気づきの公民館活動・委員活動をめざして」 1996/10全日本社会教育連合会『社会教育』51巻10号

<http://mito3.jp/seika/1360.txt>

## 1 利用者、委員、職員それぞれの主体性による協働

### (1) トップ・ダウン論からの脱却を

公民館運営審議会(公運審)は社会教育法第29条によると「館長の諮問に応じ、公民館における各種の事業の企画実施につき調査審議するもの」とされている。しかし、実際の委員活動においては「調査審議」をするだけというわけにはいかないだろう。「調査審議」を中心としながらもそれをとおして、公民館活動に幅広く関わり、よきリーダーシップを発揮することが求められる。そのときの問題は、何をすることが公運審委員のリーダーシップなのかということである。

いうまでもなく、公民館は学習者の主体的な活動によって成立するところである。万一、公運審の活動がそれを阻害するようなものであるのならば、それはリーダーシップとはいえない。ところが、そういう本末転倒な状況もあながちないとはいえないのである。たとえば、「わが町の住民は学習欲求水準が低いから、公運審委員等の高い見識による啓発が期待される」などというトップ・ダウン(上から下へ)の考え方が会議の席上で堂々と披露されたりしている。学習欲求水準が低いということは、自らが生きるということに関心がないということである。いったい、どこにそんな住民がいるのか。そんなことをいう余裕があるのなら、その前に、住民のリアルな学習欲求に気づかない自分のアンテナのお粗末さを恥じたらどうか。住民の潜在的学習欲求を顕在化できない公民館活動の貧困をどうにかしたいと思ったらどうか。

### (2) ワン・オブ・ゼム論からの脱却を

上のトップ・ダウン論の裏返し「ワン・オブ・ゼム(彼らのうちの一人)論」である。「自分たち委員だって住民の一人でしかない」という言葉は、一見、謙虚で民主的なことのように感じられる。たしかに「私は住民の一人である」というのはごく当たり前のことなのだが、それでは、どんな姿勢で公運審活動に臨むのか。そこには、「自分は住民の一人であるのだから、意識せずとも住民の意見を代表できる」という安易な姿勢や、場合によっては「自分は住民の代表であるのだから、自分に反対する者は住民の敵である」という傲慢な姿勢が隠されていないか。住民は「自らが学びたいことを学びたい手段で学ぶ」という生涯学習主体であるが、「ワン・オブ・ゼム論」はそれとは異質な委員としての自らの立場を忘れていて、あるいはそこから逃げ出している(この場合は、「よきリーダーシップなんかありえない」という敗北主義)といわざるをえない。

# 市民・市民委員・職員の協働を求めて2

蛇足になるが、職員にさえそういう人がいるのだから驚いてしまう。そんな人は、さっさと辞表を出して、言葉どおり住民の一員として自主的活動を行えばよいのだ。職員や委員は、住民と水平に、しかし、異質を交流しあうべきであって、「ワン・オブ・ゼム論」で住民と同一化してしまうのでは非民主的である。そもそも、住民にだってただの「ワン・オブ・ゼム」はいない。みんな、個性をもった別個の存在のはずである。「ワン・オブ・ゼム論」は、「みんな同じ考え方と意見をもつ仲間だ」というぼくたちが陥りがちな現実逃避の妄想にすぎないのかもしれない。

## (3) 公運審と利用者、職員との協働

トップ・ダウン論とワン・オブ・ゼム論の双方からの脱却のためには、次のヘッドシップとリーダーシップとの違いがヒントになる。--ヘッドシップとは「組織が階層的上位者に公認している、制度上の権威に依存する指導現象」であり、リーダーシップとは「指導者個人の魅力や能力に依存する指導現象」である。(見田宗介他『社会学事典』弘文堂)。ゆえにリーダーシップは流動的で柔軟なものであり、トップ・ダウンでもワン・オブ・ゼムでもなく、住民が自発的に支持を寄せることによって成立する、異質どうしが水平に交流するネットワークの関係であるといえる。

このネットワーク型の関係を「協働」と言い換えることができる。神奈川県生涯学習審議会答申「学習社会かながわを展望した生涯学習振興の基本的方策について」(平成6年5月)では、次の2つの視点から、行政と民間とのこれからの望ましい関係を「協働」であるとしている。--①役割の違いを踏まえた上で、施策や事業の推進を協力しあうという「役割関係」の重視、②県民を客体(対象)としてとらえるのではない、県民の「主体的参加」の重視--。このように、協働とは、双方の主体性がともに発揮される関係である。そして、公運審活動においても、利用者や職員との協働関係をつくりだすことが必要なのである。

# 社会教育の内容 公民館三階建て論の限界

「松戸市社会教育計画の方向性を探る」国立市公民館視察報告  
聖徳大学生涯学習研究所紀要『生涯学習研究13』（2015年3月）

<http://mito3.jp/seika/3350.pdf>

## 1 系統的学習を頂点に置いた「三階建論」が未だに生きている

今から50年前、小川利夫は「都市社会教育論の構想」(東京都三多摩社会教育懇談会『三多摩の社会教育 I』、1964年)において、1階を体育・レクリエーションまたは社交、2階をグループ・サークルの集団的な学習・文化活動、3階を社会科学や自然科学についての基礎講座や現代史の学習についての系統的学習の拠点とする「公民館三階建論」を提起した。

そこで概念的に頂点の一つに置かれた「政治学習」は、今でも、市民参画によってしきりに講座が開催されていた。もちろん、その基本には「社交の場」(象徴的には「1階」とされる)があり、これについては、1946年の文部次官通達(寺中構想)の言う「公民館は町村民の親睦交友を深め、相互の親睦和合を培い、以て町村自治向上の基礎となる社交機関でもある」と一致するものである。

私は公民館を「住民の自治能力よりも、まずは癒しの場」とし、その条件として、第一に、「自分らしくいられる場」、第二に、公的課題の学習を契機として「社会的役割の遂行を通して社会的承認を得られる場」としたことがある(西村美東士「癒しの公民館—新しき伝統」、全日本社会教育連合会『社会教育』54巻3号、1999年)。

国立市公民館のような「先進的社会教育機関」においては、いわゆる「旧住民」のような保守層をも取り込んだ「社交の場」、「癒しの場」としての機能をどう確保するのか、そして自己完結的な「政治学習」を超えて、「郷土振興の基礎づくり」(前掲「寺中構想」)としての自らの手の届くまちづくり実践にどうつなげるのかが、課題になると感じられた。逆に松戸市の社会教育にあっては、国立市公民館のような突出的であるがゆえの問題は生じないものの、ややもすると地域と人々の仕事や暮らしの切実な課題から離れたなまぬるい学習が行われていて、先進的社会教育機関と同様に、「自らの手の届くまちづくり実践」にはつながらないという問題があると考えられる。

# 社会教育の方法 どのような苦勞をしてきたか 寺中構想の「伝統」を大切にしたい

1999/3西村美東士「癒しの公民館－新しき伝統」全日本社会教育連合会『社会教育』54巻3号、pp.34-37

<http://mito3.jp/seika/1690.pdf>

- 1癒される場としての公民館－寺中構想の再評価
- 2血縁・地縁から問題縁へ－水平異質共生のコミュニティ
- 3住民の自治能力を向上させることよりも、まず大切なのは癒しと安心－過去の学校のような集団づくりはもうやめよう
- 4「地域社会に役立っている私」という住民の存在確認－コミュニティに癒しを広げる公民館の公的役割



# 社会教育の方法 どのような苦勞をしてきたか 寺中構想の「伝統」を大切にしたい

生涯学習は個人の「どこまでも知りたい」という内発的動機に基づくもっぱら自己実現の行為といえよう。しかし、その自己実現は、社会的認知・承認の欲求の充足なくしては、ほぼ達成不可能である。その点では、マズローが社会的欲求を、自己実現の欲求や自我欲求よりも前のレベルに位置づけたことは現在でも通用する。

ただし、現代社会においては社会的欲求こそ一番満たされにくく、それゆえ多くの個人にとっては最高次の欲求にまで高まっているのかもしれない。本論も、この現代の欲求に応える公民館経営を提起しようとしたものである。

もちろん、社会的承認は、先述の3つの自己決定活動以外にも、本来、家族や職場への帰属意識などによって満たされるはずのものである。しかし、そこに頼りすぎることがむしろ病理を生み出しているのが現代である。これに気づいた一部の市民たちが自己決定活動に踏み出しているのだろう。そこで得られるのが、社会的役割の遂行と、それによる社会的承認を実感できる社会貢献のチャンスである。そして、公的課題の学習も、公民館が地域の総合的な教育施設であるがゆえに、学習者がその学習成果を社会貢献につなげていく条件を十分に備えている。

今日、多くの若者が「自分は社会において意味のある存在である」と胸を張れない状況がある。そういう人たちに対して、「あるがままの自分が両手を広げて歓迎される」居心地よいサンマにおける癒しだけにとどまらず、さらには「地域社会に役立っている私」という究極の癒しのチャンスまでも提供する公民館であってほしい。今後の公民館活動の「究極の」ねらいは、「住民の自治能力の向上」ではなく、学習者一人一人にとっての、その二つの癒しにおくべきではないか。

# 一斉集団承り型の打破 十進法だけの世界からSNS等情報発信へ

「SNS コミュニティとアンバサダーで売り上げを伸ばす」  
多摩美術大学教授 佐藤達郎先生より紹介を受けたページ リンク集

**Dumb Ways to Die**

[リンク](#)

**DOVE EVOLUTION**

[リンク](#)

[リンク](#)

**T-mobile dance**

[リンク](#)

[リンク](#)

**Sony BRAVIA**

[リンク](#)

[リンク](#)

**祝！九州 九州新幹線全線開CM 1**

**80秒**

[リンク](#)

[リンク](#)

**Carlsberg stunts with bikers in cinema**

[リンク](#)

**IBM Smarter City**

[リンク](#)

**Southern Comfort | Beach | Whatever's Comfortable**

[リンク](#)

**Oreo Scores On Super Bowl Blackout**

[リンク](#)

説明：Oreo が Super Bowl の停電のとき、担当者がリアルタイムにPVを発信して「得点した」。

# 個人の充実

- 他者や社会との関わりによって「個」が深まる  
公民館と私—可能性の物語18分

# 集合学習:集会学習+集団学習 ICTと関連して

徳島大学高度情報化基盤センター『広報』第9巻 2003.12発行

西村美東士「人と学びのネットワークとしての情報教育」

<http://mito3.jp/seika/2290.txt>

社会教育では「集合学習」を「集団学習」と「集会学習」に区別している。集団学習では、ただ集まるだけでなく、学習者同士の関与(相互教育)が期待される。そして、学級・講座などは「集団学習」として位置づけられるのである。学内の「集合学習」もそうであってほしい。

また、ワークショップの特徴の一つとして「笑いが絶えない」が挙げられる。1台のパソコンを囲んで、5人程度のグループがわいわい騒ぎながら、何か成果物をつくりだす。そういう光景が学内のあらゆるところで見られるようになるのを楽しんでらう。

貸出用ノートパソコンを多数備えて、学内のすべての教育の場でコンピュータが使えるようにしておけば、それは実現可能と考える。

# 学習は本来個人的事象

「学習は本来個人的事象」であり、学習者自身が、自分のペースで、自らの興味や価値観、能力、レディネス(学習への準備状態)、背景となる体験、これまでの学習や訓練の機会といった要因に応じて達成していくものである。

# 「関係」のあふれた情報提供機能を

1984/10社会教育施設に『関係』のあふれた情報提供機能を  
全日本社会教育連合会『社会教育』39巻10号、pp.73-77

<http://mito3.jp/seika/0210.pdf>

1「押しつけがましさ」の克服、2情報提供と「関係」、3人間的、生活的、全面的、今日的、「つながり」の情報、4地域情報・行政情報の提供、5カウンセリング・グループワークの位置づけ、6情報提供の個性化とシステム化、7情報の整理と提供がさらに認識を育てる、8社会教育施設が情報提供機能を発揮する役割。「押しつけがましさ」の克服と、人間的、生活的、全面的、今日的、そして「つながり」の情報提供の必要性を指摘した。

# 学習相談 十進法だけの世界からワ ンストップサービスへ

暮らしと仕事に関わる情報

前出懸賞論文より

「人間的」・・・人間が人間として求める、人間に関するナ  
マの情報

「生活的」・・・人間が実際の生活から求める情報

「全面的」・・・人間が生きていく上での喜怒哀楽に関する  
あらゆる情報

「今日的」・・・過去の資料よりも、人間が今、つきあたって  
いる課題に関する、今の情報

「つながり」・・・一人一人の人間を基礎にしつつも、情報の  
受け手が、それをもとに活動したり、他の人間とつな  
がったりするための情報

# カウンセリング

共感的理解 ロジャーズは、そのカウンセリング理論において、カウンセラーが患者に対して共感的理解をどこまでできるかを中心の一つにおいた。共感(シンパシー)とは、相手の言葉等を、その背後にある相手の準拠枠組ごと理解することである。それは「あたかも」相手と同じように感じることであって、自分の今までの枠組と「事実、同じだ」というときの同感とはまったく異なる。指導者は薬物依存の青年に対して、自分までいっしょに薬物を試みることによって彼に同感しようとする必要はないが、意識的な傾聴などによって共感的に理解しようとする必要がある。これによって、指導者自身の準拠枠組も相手とともに拡大、変化することになる。これが自己拡大であり、教育の根底的な目的でもある。すなわち、共感的理解のための意識的な努力によって、指導者も共に育つ(共育)のである。

『癒しの生涯学習』より <http://mito3.jp/seika/1470.txt>



# エンカウンター

エンカウンター 遭遇。仮面や演技ではない出合いを意味する。そこには異なる枠組や価値観をもつ他者との出合いがある。自己疎外、人間疎外の現代社会においては、そういう出合いを意図的・意識的に創り出し、回復しようとする動きが見られる。これがエンカウンターグループである。ここでは、組織の奴隷としての時空間から離れた一時的な「文化的孤島」(1週間の合宿など)をメンバーの同意にもとづいて人口的に設定し、本音で出会うための構成的または非構成的なプログラムが提供される。しかし、自己決定の生涯学習、ボランティア、地域・市民活動においては、文化的孤島をことさら人口的に設定しなくても、メンバー同士のエンカウンターが期待できる。また、そういう自己決定のサンマの指導者には、毒にも薬にもならない仮面の社交辞令で無難にこなす技術よりも、共感的理解の努力のもとにエンカウンターする態度と意識が求められる。

前掲『癒しの生涯学習』より

# ストローク

ストローク 交流分析の用語。「私はあなたの存在に気づいていますよ」と伝える行為。自分の時間を相手に与える愛の行為ともいえる。身体的(スキンシップ)、言語的(挨拶、励まし等)、非言語的(まなざし、うなずき、傾聴等)の3種、肯定的、否定的の2種、条件付、無条件の2種がある。ストロークなしでは生きていけないのは万人共通だが、その受け方、与え方にはそれぞれ特有の癖があるといわれる。また、「貧しいものはさらに貧しく、富めるものはますます富を増す」という言葉もあり、ストローク経済の法則と呼ばれる。ストロークは、上手な、あるいは悪い、ほめ方や叱り方にもつながるという意味からも、親や指導者にとって大切だが臨床的で難しい問題でもある。どんな種類のストロークがよいのかは一概にはいえないのである。「おまえなんかいなくたっていいんだ」などの無条件否定のストロークについては論外だが.....。

前掲『癒しの生涯学習』より

# リーダーの必要性

## 千葉県・千葉市教員等育成指標から考える

### 千葉県・千葉市教員等育成指標

目標 信頼される質の高い教員の育成を目指して

「千葉県の教育の振興に関する大綱」「千葉市の教育に関する大綱」及び  
第2期千葉県教育振興基本計画「新 みんなで取り組む『教育立県ちば』プラン」より

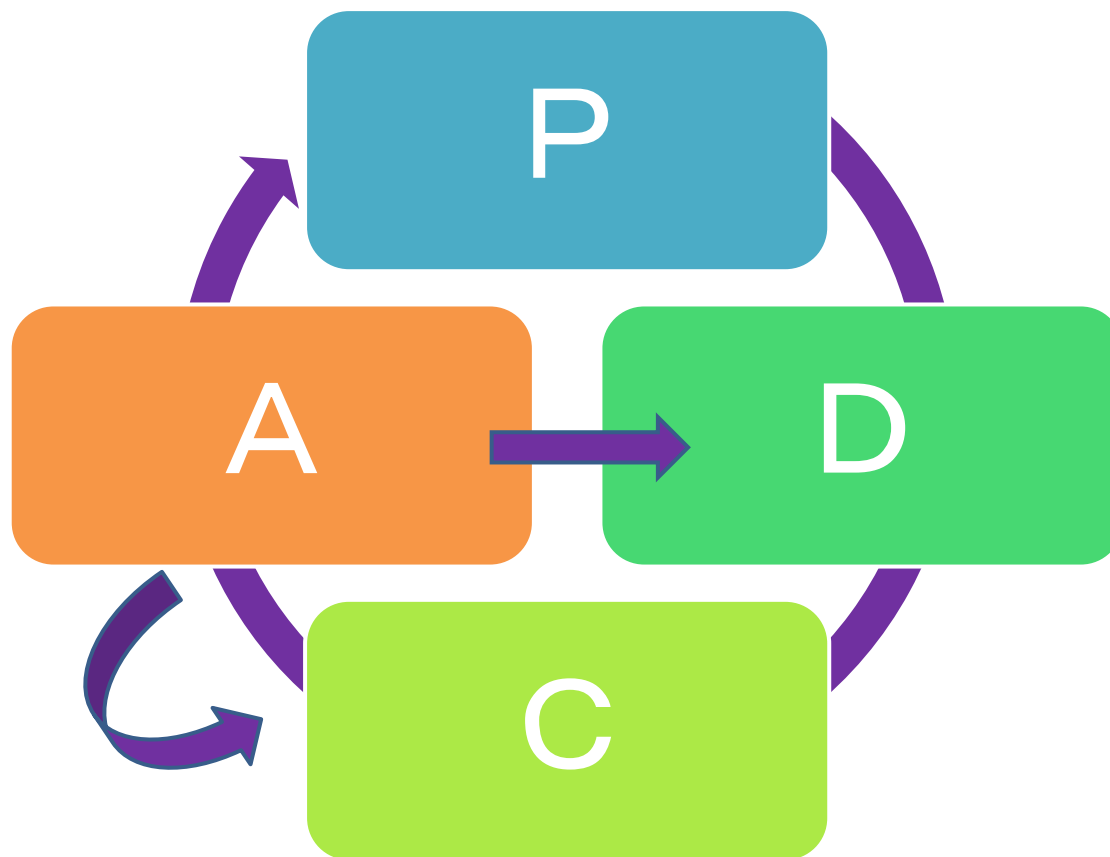
四つの柱	構成要素	養成段階	千葉県・千葉市が求める教員像	ステージⅠ 【成長期】 (学級経営、担当教科指導等) 学級・教科担任等としての 自覚と資質能力の向上	ステージⅡ 【発展期】 (学年経営、校務分掌主任等の ミドルリーダー) ミドルリーダーとしての 自覚と資質能力の向上	ステージⅢ 【充実期】 (学校運営等、職員全体へ 指導・助言) チーム学校をリードする 自覚と資質能力の向上
				教職に必要な素養	<ul style="list-style-type: none"> <li>○使命感 ○責任感</li> <li>○教育的愛情 ○高い倫理観</li> <li>○服務規律の遵守</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教職の意義</li> <li>○教員の役割</li> <li>○教職への意欲</li> <li>○課せられる義務等</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○社会性</li> <li>○コミュニケーション能力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教員としての広い視野や教養等を身に付けるとともに、学び続ける意欲やコミュニケーション能力を育む。</li> </ul>	教育に関し、社会的・制度的事項やその意義、歴史等について理解するとともに、最新の動向に関し情報収集に努めている。				
<ul style="list-style-type: none"> <li>○広い視野</li> <li>○学び続ける意欲</li> <li>○社会の変化への対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教育の理念・歴史・思想や社会的・制度的・経営的事項等についての基礎的知識(選択)</li> </ul>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>○教職に関する教養</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習指導要領、幼稚園</li> </ul>					

# クリニカルラダーとの比較

技術技能教育研究所 <http://ginouken.com/KangoShougai.html>

ラダーⅣ				計画的管理・後輩指導・看護研究の実践を中心とした統合的看護実践
ラダーⅢ			業務管理・人的管理・物的管理を中心とした高度な看護支援の実践	
ラダーⅡ		チームナースングを中心とした計画的看護実践		
ラダーⅠ	看護実践を中心とした確かな看護技術の習得			
経験年数	1~3年	4~8年	9~15年	16年~

PDCA=目標設定、達成方法設定、到達度評価、改善



# 資質・能力の構造化＝カリキュラム作成の技法 1

前掲自著「生涯学習と市民参加」より

資質・能力の構造化＝カリキュラム作成の技法

ここで、カリキュラム作成の技法としてクドバス(CUDBAS=CURriculum Development Method Based on Ability Structure、1990年、森和夫)について紹介したい。発足当時は生産現場等で活用されていたが、最近になって急激に国際的な広がりや、看護師のクリニカルラダー(看護実践能力を段階的に表した「はしご」)などでの深まりを見せ始めている。クドバスのマニュアルは、最新版がホームページで公開されており、5人程度のチームでそのマニュアルを読み上げながら作業を進めれば、「クドバスチャート」を作成することができる。

クドバスでは、該当ラダーのトップクラス3人、上がったばかりの人1人、上のラダーの該当者1人を標準的メンバーとする。最初に職業人としての課題を設定して共有する。適切な課題設定のためには、指導者の問題提起や揺さぶりがあれば、より望ましい。この課題に基づいて、メンバー一人一人が、自己内対話によって、「分解した能力」を書き出す。この「能力カード」を重要順に構造化した「クドバスチャート」をチームで作成する。このチャートをもとに、分解された能力を各科目の到達目標に組み込んで、各回の「本時の目標」に配分する。そのほか、各科目の各回のテーマ、方法、内容を設定する。これらの科目を段階順に並べたものがカリキュラムである。

## 資質・能力の構造化＝カリキュラム作成の技法 2

2015年、中教審答申「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」では、「チームとしての学校」像は、「校長のリーダーシップのもと、カリキュラム、日々の教育活動、学校の資源が一体的にマネジメントされ、教職員や学校内の多様な人材が、それぞれの専門性を生かして能力を発揮し、子供たちに必要な資質・能力を確実に身に付けさせることができる学校」とされた。そして、学校の組織文化も含めて見直し、人材育成や業務改善等の取組を進めるよう提言された。

組織に帰属する一員として、メンバーと協働するという「組織文化」が求められているのである。そのときの「人材育成」が目指す達成目標は、現場の職員の参画により、職場特有の課題に基づき、特定の状況や変化に応じて、臨床的、帰納法的に整理する必要がある。これが「チームとしての人材育成」のあるべき姿といえよう。クドバスでは、単純な作業(オペレーション)は扱わない。ルーティンワークではなくて、たえず相手にあわせて自分の能力を発揮する場合は、クドバスは大いに力を発揮する。そこには、臨床的、帰納法的という存在価値がある。

それぞれの職場に存在するこのような未知及び既知の「能力構造」は、一般には整理されていないのが実情である。しかし、「必要能力」は職場の者なら誰でもわかっていることだ。それなのに、これを構造化するなんて大変なことだと多くの人が思っている。だが、それは「やっていないから」というだけであって、クドバスを使ってチームでワークを行えば、誰でも必要能力をほぼ網羅でき、その「能力構造」を明らかにすることができる。どんなベテランでも一人では、いくつか必要能力を挙げるだけにとどまってしまう。このようないわば「未知への挑戦」は、職場のチームにしかできないことである。

# クドバスを活用したプログラム作成例

2005/3/9 西村美東士「クドバスを活用した子育て学習の内容編成－高校生の子をもつ親のために」聖徳大学生涯学習研究所紀要『生涯学習研究』3号、pp.41-54

<http://mito3.jp/seika/2370.pdf>

「職業能力分析」の手法を援用することにより、高校生の子をもつ親に求められる能力を分解してとらえた上でこれを構造化し、各科目の到達目標及び全体の「仕上がり像」が明示化された学習内容を編成して、学習プログラムを作成した。その結果、学習スケジュール作成の段階にあっては、比較的容易に、テーマごとの学習目標を明確に設定することが可能であることが明らかになった。

表2 ② CUDBAS必要能力・資質リスト「高校生の子をもつ親」(列・行ともに重要度順)

仕事	能力-1	能力-2	能力-3	能力-4	能力-5
1 前向きな態度を示す	1-1A 人生に対して前向きな態度がとれる	1-2A 人権を尊重する態度がとれる	1-3A 自分が間違っていたら子に謝ることができる(BBS)	1-4B 親自身がうまくいかないとき、ヒステリックでない態度がとれる	1-5B 家族旅行をしたとき楽しい態度がとれる
2 子の変化を待つ	2-1A ほっとしておくことができる	2-2A 子のプライバシーを尊重する態度がとれる	2-3A 知っていても知らない態度がとれる	2-4A 子を信頼することができる	2-5B 子にとっては家がわが家ではないことを知



# スキルマップでは人材育成ができない

<http://ginouken.com/SkillMapDewa.html>

世間ではスキルマップを高く評価しているように見えます。作業者が何を担当できるかの見える化ができることは画期的でした。これまでに無かったものがあるということは相当のインパクトです。ISO認証と同時にスキルマップは人材管理のツールとして脚光を浴びました。しかし、管理のためのツールで、教育とは無縁のものと言って良いでしょう。

スキルマップは縦欄に作業の名称を列記します。例えば研削作業とか、仕上げ作業、測定作業などの言葉が入ります。横欄に作業者の名前を記載します。通常、年齢の高い方から列記します。表の中にはどの程度できるかについて5段階評価のスコアを記載します。工場の中の誰がどの作業をどの程度できるかを示したものです。人材育成の立場からこれを使おうとするとすぐに壁に突き当たります。これを見ても、何をどんな順序で教えるべきかが全く見えないのです。仕上げ作業と言ってもその範囲は膨大で、どこがその境界かを示してほしいものです。実態はわかったが何をどうすれば良いかが示されなければ意味がありません。

CUDBASによる能力マップはこれとは全く違います。人材育成から見ますと何を学習すれば良いかが明瞭に示されます。しかも能力は「知識」「技能」「態度」の3つの側面から記載されています。重要度の水準も明示しています。スキルマップが工場の作業の網羅であるに対して、能力マップは工場の作業者に必要な能力の網羅です。能力開発を目的とした能力マップはズバリ教育のための人材マップと言えます。実際に能力マップからカリキュラムを作成するプロセスをみれば一目瞭然です。

能力マップの得点の平均値の低い順に能力項目をソートしますと、対象者全体の弱みが明らかになります。また、平均値の高い順にソートすれば強みがどこにあるかがわかります。能力開発を弱みの克服ととらえますと教育実施の優先順位が一目でわかります。この他に課題解決に生かすことも可能です。例えば今抱えている課題の解決に必要な能力項目をピックアップして、低得点のものを集中して教育すれば、課題解決に大きく貢献することでしょう。

効果的なカリキュラム開発がいつも簡単に実現できてしまうところに良さがあります。今まで、スキルマップが教育に反映できない点はここに原因がありました。ですからこれからの時代は能力マップが常識になることでしょう。

\*言葉を換えて言えば「管理のための管理」ではなく、「教育のための、そして個々人の発展のための能力マップ」に注目すべき時が到来したと言えます。

森 和夫 技術・技能教育研究所

# 社会教育指導者の育成 カン・コツ見える化のカン・コツ

キャリア教育のための暗黙知教材の開発（手引き書）  
オンライン通信教育教材「キャリア教育シリーズ」外車  
販売のポイント

インタビューのポイント  
× 見て盗め

若手社員の傾向 世代間ギャップ  
若手社員育成の課題と方法

—「組織の中で個性を発揮する人材」に育てるには—  
2014年9月西村美東士『日本生涯教育学会論集』35号、  
pp.71-80

<http://mito3.jp/syohyou/mitoron/3290.html>